

## 第十五回上水協議會概況

既報ノ如ク第十五回上水協議會ハ昨年十一月二十日ヨリ二十六日ニ至ル一週間臺灣總督府新廳舍三階會議室ニ開會セリ

二十日午前十時第一鈴ヲ以テ會員着席ト共ニ來賓京都帝國大學工科大学教授大井工學博士、陸軍醫務局小泉三等軍醫正、內務省山田技師、內務省衛生局山下技師、總督府陸軍經理部山本三等主計正及番外高木博士、堀内博士、湯池警視總長、倉岡技師、富島臺北廳長、片山技師列席シ開會ニ先チ高田民政長官代理ヨリ大要別項ノ如キ一場ノ挨拶アリ終リテ慣例ニ依リ主催地トシテ高橋土木局長代理議長席ニ就キ開會ヲ宣シ書記ヲシテ本協議會開催ニ至ル迄ノ經過報告ヲ朗讀セシメ續テ日程ニ入ル

總督民政長官俱ニ上京中テ不在テアリマスカラ親シク諸君ニ御目ニ懸リ御話ヲ承ルト云フ事カ出來ナイコトハ甚タ遺憾ニ存シマス殊ニ今回會議ノ開催ニ際シマシテ民政長官カ御挨拶ヲ致スト云フ順ニナツテ居リマスルガ之レ亦不在ノ爲ニ私カ代リマシテ御挨拶ヲ申上ル様ニト云フ様ナ次第テ甚タ遺憾ナコトデアリマスガ此ノ邊ハ充分ニ御諒察ヲ願ヒマス

今回ハ第十五回ノ水道會議デアリマシテ今回テ臺灣ニ於キマシテハ第二回目デアリマス此ノ大會ヲ開クコトニナリマシタノハ總督府ニ於キマシテモ非常ナ光榮ニ存シマス皆サンニ深ク御禮ヲ申シ上マス又諸君ハ何レモ非常ニ御用多ノ方々デアリマスルガ然ルニモ拘ハラズ態々

本島ニ迄御出掛ケテ願ヒマシテ御會議ヲ願フト云フコトハ特ニ深ク御禮ヲ申シ上テ置キマス申テ迄モナク上水道ト云フモノハ國民ノ健康保健ト云フ點ニ於キマシテ最モ大切ナルモノナル殊ニ我臺灣ノ如キ植民地ニ於キマシテハ其ノ開發進歩ヲ圖ルト云フ點ニ於キテ最モ大切ナルモノ、一ツテアリマス本總督府開始以來本島開發ノ最モ大切ナル一ノ手段ト致シマシテ上水道ノ敷設ト云フコトヲ採リマシテ爾來各總督共ニ其ノ方針ヲ以テ進行シテ參リマシテ著々財政ノ許ス限リ事情ノ許ス限リ上水道ノ敷設ヲ圖ツテ居ル次第テアリマス猶此ノ會議カ濟ミマシ知後ニ地方御巡視ニナリマスルガ特ニ本島ニ於ケル上水道ノ敷設ニ付テ充分ノ御視察ヲ願ヒ何等カ御示シテ仰クコトカ出來レハ洵ニ仕合ノ次第テ申ス迄モナク上水道ニ付キマシテハ經濟上ノ方面技術上ノ方面カラシテ考究スヘキ所ノ點ハ多々アル次第テアリマス殊ニ地方ニヨリ同シ問題テアリマシテモ考究カ異ナル別途ノ考究ヲ要スルコトカ多々アリマス玆ニ今回出テマスル問題ノ如キ又將來問題トナルヘキ新シイ問題研究問題ト云フ様ナモノモ多々アリマスルカ是等ハ其ノ途ニ於テ充分ノ知識經驗ヲ有スル處ノ諸君テアリマスルカラシテ其ノ御討議ノ結果ハ全般ノ上水道ノ改善發達ニ向ツテ非常ニ利益ヲ得ルコト、確信致シマス從ツテ本島ノ水道事業ニ向ツテモ益々良好ノ結果ヲ收ムルコトヲ得ルコトニナルダラウト信シテ居リマス

ドウゾ問題ハ兎ニ角本島ニ於ケル水道敷設等ニ就テノ實地ノ狀況モ充分ニ御視察アランコトヲ希望致シマス

猶附ケ加ヘテ御願ヒシタイコトハ此ノ臺灣ノ實際ノ狀況カ兎角内地ニ誤リ傳ヘラレテ居ルコトカ往々アル勿論惡イモノヲ善イト云フ様ナコトヲ望ンテ居リマセンガ實際ノ有様カ兎角誤ツテ傳ヘラレテ居ル事情カアル其ノタメニ臺灣ハ各種ノ問題ニ非常ニ迷惑ヲスルト云フコト

カアル極端ナ例ヲ申シマスレハ土匪ト生蕃トヲ混同シテ居ル臺灣總督府ハ土匪ノ騷動ノ爲ニ  
 常々非常ノ苦心ヲ致シテ居ルト云フ話カアル極端ノ例ハ生蕃カ臺北ノ市中ヲ往來シテ居ルト  
 云フヤウナ考ヲ以テ色々ニ傳ヘラレテ居ル様ナ例カアリマス其ノ他誤リノ傳ツテ居ル例ハ澤  
 山アリマスルガ是ハ諸君ハ之カラ地方ノ方ヲ御巡視ニナリマスルノハ主トシテ御視察ヲ仰キ  
 マスノハ上水道ノ點テアリマスルガ猶餘暇カアレハ各般ノ點ニ就テ充分ノ御視察ヲ仰キマシ  
 テ實際ノ狀況ヲ御覽ニナリ其ノ實際ノ狀況ヲ内地其ノ他各植民地等ニ御傳ヘ下サルコトヲ切  
 望致ス次第テアリマス是ハ動モスレハ臺灣ノ真相カ誤リ傳ヘラレテ居ルカラ夫レヲ直スト同  
 時ニ實際ノ狀況ヲ御傳ヘ下サランコトヲ希望スルノテアリマス殊ニ諸君ハ殆ント全國ニ亙ッ  
 テ極メテ重要ナル位置ニ御居テ、其ノ地方ノ樞要ノ方テアリマスカラ斯ウ云フ方々カラ實地  
 ノ事情ヲ御傳ヘニナルコトハ最モ臺灣ニハ都合ノ良イコトデドウゾ此ノ點ハ充分ニ御了承下  
 サツテ各般ノ點ニ就テ御視察ヲ願ヒマス勿論御巡視ニ就テハ出來得ル限り御便利ヲ圖リマス  
 尙足ラン所ハ充分御注文下タサレハ出來ル限り其ノ御注文ニ應スル積リテアリマス  
 猶最後ニ申上テ置クノハ本會議ハ慣例トシテ主催地ノ當局者カ議長ノ席ヲ瀆シ議場ノ整理ニ  
 當ル慣例ニ成ツテ居ルサウテ今回ハ臺灣總督府ノ當局者カ高橋土木局長代理ヲ以テ此ノ議  
 長ノ席ヲ瀆スコトニ致シマスカラドウゾ此ノ邊ノ御了承ヲ願ヒマス猶私モ親シク此ノ議事ヲ  
 傍聽致シマシテ總督長官ニ報告ヲ致スト云フ譯テアリマスルガ他ニマタ取込シタ用モアリマ  
 シテ長ク傍聽叶ハズ點モアリマセウト思ヒマスカラ此ノ邊モ惡シカラス御諒承ヲ願ヒマス  
 會期中ハ毎日午前ヲ會議ニ充テ午後ハ臺北市内衛生諸設備公學校及近郊農事試驗場臺北淡水北  
 投各水源地其ノ他ニ就キ豫定ノ視察ヲナシ又二十三日午後一時城南小學校講堂ニ於テ協議會  
 主催ノ講演會ヲ催シ内務省技師山田工學士ノ都市計畫ト上水道京都大學教授大井工學博士ノ都

市衛生工事に問題スル有益ナル講演アリタリ  
會議ハ豫定ノ如ク二十六日議案全部ノ審議ヲ終了シ翌二十七日來賓及會員ハ一同中南部ノ視察  
ノ途ニ上レリ

十二月二日便船亞米利加丸ニヨリ各自歸任セリ尙一行中有志ハ引キ續キ日月潭又ハ角板山等ノ  
蕃界ヲ視察シ同六日備後丸ニテ歸途ニ就ケリ

本會議ニ於テ附議シタル議案ハ宿題十七件新問題三十九件報告二十五件研究問題十八件合計九  
十九件ニシテ議事ノ成績左ノ如シ

一 宿題新問題合計五十六件ノ内

議了シタルモノ

四十一件

本決議ヲ次回ノ會議ニ附スルコト、シ今回ハ

内決議ニ止メタルモノ

一件

宿題トシタルモノ

六件

提出者ヨリ撤回シタルモノ

二件

他ノ問題ノ解決マテ討議ヲ延期シタルモノ

二件

提出者缺席ノ爲取消シタルモノ

三件

二 報告ハ二十五件全部終了

三 研究問題ハ十八件其ノ研究擔當者ヨリ經過報告アリ何レモ引續キ尙研究ヲ續行スルコト

トナル

其ノ内

研究擔當箇所ヲ追加シタルモノ

二件

新問題ト合シテ改題シタルモノ

一件

ニシテ其ノ他動議トシテ

一 宿題又ハ新問題ニシテ提出者出席ナキモノハ之ヲ取消スノ件

二 次回ヨリ大日本私立衛生會ニ對シ會議ニ臨席ヲ申請スル件

ヲ可決セリ

會員出席箇所ハ東京市外十六箇所ニシテ會議參列者議席及議題等左ノ如シ

來賓

京都帝國大學工科大学教授

工學博士

大井清一

陸軍省醫務局三等軍醫正

小泉親彦

内務技師

山田博愛

内務省衛生局技手

山下辰也

臺灣總督府陸軍經理部三等主計正

山本省三

會員

一番 (東京市) 小野基樹

八番 (神戸市) 水野廣之進

二番 柿澤信義

九番 森崎長次郎

三番 大堀佐内

十番 (缺)

四番 (大阪市) 野田泰男

十一番 (佐世保市) 宮脇和三郎

五番 榎垣萬次郎

十二番 (奈良市) 安田靖一

六番 (横濱市) 相良顯三

十三番 (缺)

七番 山下由尾

十四番 (廣島市) 橋本安吉

十五番	(若松市)	石井良一	三十五番	濱野彌四郎
十六番		野口雄三郎	三十六番	小西恭介
十七番	(小倉市)	吉加資芳	三十七番	高橋甚也
十八番		旗生武憲	三十八番	山口謹爾
十九番	(門司市)	池田龜太郎	三十九番	上田一郎
二十番	(缺)		四十番	惠澤貞太郎
二十一番	(佐賀市)	横尾弘貞	四十一番	鈴木近志
二十二番	(鹿兒島市)	堀江勝己	四十二番	粕谷隆次
二十三番	(朝鮮總督府)	倉橋金鉢	四十三番	山本政雄
二十四番		秋田金治	四十四番	梅田清次
二十五番		樋下田鎌治郎	四十五番	長尾政元
二十六番	(關東都督府)	筑紫又藏	四十六番	田中利弘
二十七番	(缺)		四十七番	山本和吉
二十八番		小島文爾	四十八番	江本一男
二十九番	(青島民政部)	鬼藤與之吉	四十九番	榊田忠彦
三十番	(南滿洲鐵道株式會社)	加藤與之吉	五十番	黑田喜一郎
三十一番		村井啓太郎	五十一番	國弘長重
三十二番		河西健次郎	五十二番	松本圓次郎
三十三番	(臺灣總督府)	高橋辰次郎	五十三番	芝沼嫩
三十四番		山形要助		

問題報告研究問題等次ノ如シ

### 第拾五回上水協議會問題

#### (一) 宿題

#### 問題

一 上水中ノ炭酸瓦斯ハ鉛管中ノ鉛ト化合シ水ニ可溶性ノ炭酸鉛ヲ化成スルノ念ナキヤ

提出者 朝鮮總督府

附託委員 東京市、大阪市、臺灣總督府、朝鮮總督府、南滿洲鐵道

株式會社

二 本會議ノ範圍ヲ擴張シテ下水ニ及ホスノ可否

#### 理由

上水ト云ヒ下水ト云ヒ其施設ニ截然タル區別アルカ如シト雖畢竟兩者相俟テ國家衛生ノ實ヲ擧クヘキナリ然ルニ本邦ニ於テハ現今其大多數ノ都市ニ於テ既ニ上水ノ設備アレトモ下水ニ關シテハ帝都ニ於テスラ未タ之アル無シ乃チ我國現時ノ衛生狀態ヨリ見テ之カ施設ヲ講スルハ誠ニ焦眉ノ急ナルモノナリ而シテ上水ニ關スル技術者及事務家ノ多クハ同時ニ下水ニ關シテモ其責任ヲ分ツヘキ人々ナルヲ以テ本會議ニ於テハ上水ニ關スル事

項ヲ協議スルト同時ニ下水施設ノ速成ヲ期シ併セテ其施設ニ對シテモ協議スヘキ必要アリト認ム

提出者 南滿洲鐵道株式會社

三 濁度測定用トシテ硅藻土ヲ使用スルノ可否

提出者 東京市

四 上水協議會研究業績集第二卷編纂ノ件

理由

上水協議會研究業績集ハ大正二年十月朝鮮總督府ニ於テ第十回上水協議會ノ際東京市會員遠山博士ノ提議ニヨリ第十回迄ノ科學ニ關スル研究業績ノミヲ纂集セラレタリ然ルニ水道工學竝ニ水道事務ニ關スル業績ノ編纂セラレタルモノナキニヨリ本會業績ノ完璧ヲ期スル爲メ之レヲ業績集第二卷トシテ編纂セラレンコトヲ望ム

提出者 關東都督府

附託委員 東京市、大阪市、神戸市

五 私法上ノ契約ニ依リ市外ニ給水セル所アリヤ若シアリトセハ其ノ契約要項如何

提出市 大阪市

附託委員 東京市、大阪市、神戸市、門司市、佐賀市

六 一部給水作業例ヘハ船舶給水若シクハ特殊區域ノ給水ヲ特定人ニ請負ハシメ各需要者ニ供給セシムル場合請負人ノ撰擇料金制度ニ關スル各所ノ取扱振リヲ承リ併セテ契約書案ノ配付ヲ乞フ

提出者 關東都督府



七 上水ニ關スル講習會ヲ毎年開催スル必要ナキヤ

提出者 大阪市

附託委員 東京市、京都市、門司市、神戸市、大阪市、朝鮮總督府

八 亞硝酸ノ試薬トシテ沃度亞鉛澱粉液ト他ノ試薬トノ優劣

提出者 横濱市

附託委員 東京市、大阪市、横濱市、臺灣總督府、南滿洲鐵道株式

會社

九 亞硝酸檢定法トシテ從來規定セラレタル沃度亞鉛澱粉液法ヲめたふえにけれんぢみん法ニ改ムルノ利害

提出者 臺灣總督府

附託委員 東京市、大阪市、横濱市、臺灣總督府、南滿洲鐵道株式

會社

一〇 大腸菌ノ試驗方法

提出者 朝鮮總督府

附託委員 東京市、京都市、門司市、神戸市、大阪市、朝鮮總督府

一一 ぬすれる試薬原料トシテ沃度加里沃度汞復鹽ノ結晶ヲ使用スルノ可否

提出者 南滿洲鐵道株式會社

一二 定性試驗ノ一項トシテ磷酸ノ檢定ヲ加フルノ必要ナキヤ

一三 定量試驗ノ一項トシテ酸素含有量ノ檢定ヲ加フルノ必要ナキヤ  
提出者 南滿洲鐵道株式會社

提出者 南滿洲鐵道株式會社

一四 警察犯處罰令中ニ左ニ掲クル條項ノ追加方ヲ其筋ニ建議スルコト

一 濫ニ水道用具ニ觸ル、コト

二 濫ニ水道ヲ使用スルコト

三 共用水道栓ノ周圍ニ於テ物品ヲ洗滌スルコト

四 共用水道栓ノ周圍ニ物品ヲ放置スルコト

提出者 門司市

附託委員 東京市、大阪市、神戸市、門司市、佐賀市

一五 本會組織ニ關スル調査ノ件

提出者 京都市

附託委員 東京市、大阪市、京都市、福岡市、朝鮮總督府、橫濱市、神

戶市、佐世保市、門司市、臺灣總督府、奈良市、甲府市、廣

島市、佐賀市、關東都督府、南滿洲鐵道株式會社

一六 協定事項追加案

左記二項ヲ協定事項トシテ追加シタシ

一 上水工事用材料使用同盟規約

第一條 上水協議會ニ加盟セル各廳相互ノ便益ヲ計ル爲上水工事ニ使用スル材料使用

ニ關シ本同盟規約ヲ締結ス

第二條 本規約ニ於テ上水工用材料ト稱スルハ各種鐵管竝ニ附屬具、鉛管、麻、各種瓣類及量水器等ヲ云フ

第三條 同盟各廳ハ工用材料ハ需要又ハ不用ニ關シ相互通知ヲ以テ融通上ノ便利ヲ計ルノ義務ヲ有ス

第四條 同盟各廳ハ工用材料購入ノ際ハ其ノ都度別紙様式ニ基キ各廳ニ通知スルモノトス

第五條 工用材料供給者ニシテ購入契約ニ違背シ或ハ不正行爲等ノ爲解約若ハ其廳ニ出入ヲ差止メタルトキハ各廳通知スルモノトス

第六條 同盟應ニシテ本規約ニ違背ノ行爲アリタルトキハ其ノ關係廳又ハ之レヲ知リタル廳ヨリ上水協議會ニ報告シ其處分方ノ決議ヲ請求スルモノトス

二 加盟各所ハ上水工事計畫書竣工報告書、水道誌等ノ編纂ノ際ハ各廳へ必ス配布スル事  
提出者 關東都督府

附託委員 東京市、大阪市、京都市、福岡市、朝鮮總督府、橫濱市、神戸市、佐世保市、門司市、臺灣總督府、奈良市、甲府市、廣島市、佐賀市、關東都督府、南滿洲鐵道株式會社

一七 藥物沈澄法ニヨル濾水中ノあるみに、ひ含量ニ就テ  
提出者 大阪市

## (二) 新 問 題

### 問 題

一 地下水ヲ源水トスル所ニ於テ滷濁ヲ完全ニ防止スル方法アラハ承リタシ

二 旅順ニ於ケルば一むちと試験的使用ノ狀況ヲ述へ且ツ該器ヲ使用セル地ノ狀況ヲ承リ度シ

提出者 關東都督府

三 上水一定量中大腸菌ノ存否ヲ檢スル條項ヲ細菌的検査法中ニ加フルノ必要ナキヤ若シ遽ニ協定法中ニ加フルヲ得ストセハ當分ノ内各地一齊ニ検査ヲナシ其成績ニ依リ本問題ヲ解決スルノ必要ナキヤ

提出者 關東都督府

四 市街面積(現在住居地域)ニ對スル消火栓數ノ割合如何

提出者 朝鮮總督府

五 一日一戸當又ハ一人當實際最大使用水量如何

提出者 朝鮮總督府

六 水中鐵分ノ除去ニ關スル實例如何

提出者 朝鮮總督府

七 水質上ヨリ見タル淨水池ニ於ケル淨水ノ停滯時間限度如何

提出者 朝鮮總督府

八 水源地源水ニ病原菌ヲ發見シタル場合ノ處置及其ノ救濟方法ニ付各所ノ實驗承知シ度シ

提出者 朝鮮總督府

九 培養基ニ寒天ヲ加へタル際ニ發生スル細菌聚落數ノ差異如何

提出者 朝鮮總督府

- 一〇 左記生物ノ完全ナル驅除方法如何
- 一 濾池壁ニ群生スルもぢいをら
  - 二 濾池ニ棲息スルまつもむし
  - 三 濾砂面上ニ棲息スルもんかげらうノ幼蟲
- 提出者 朝鮮總督府
- 一一 給水工事費負擔額設備費請求者ノヲ輕減スルノ目的ニテ邸宅内ニ數箇所ヨリ引込工事ヲ爲サレタル實例アリヤ
- 提出者 佐賀市
- 一二 給水工事費中公道ニ屬スル部分ノ費用ヲ市ノ負擔額ト爲ス場合ニ其ノ費用支出ノ方法ニ就テ承リタシ
- 提出者 佐賀市
- 一三 常備職工工夫ニ被服其ノ他ヲ給與セラル、所アラハ其ノ内容承リタシ
- 提出者 佐賀市
- 一四 市街ノ撒水費ヲ水道經濟ヨリ補助セラル、所アリヤ尙撒水ノ方法承リタシ
- 提出者 佐世保市
- 一五 各市ニ於テ既設鐵管腐蝕ノ程度及之レカ防止方法承知シタシ
- 提出者 佐世保市
- 一六 水量ノ單位ヲ一定スルノ要ナキカ
- 提出者 佐世保市
- 一七 濾砂洗滌器ノ設備簡易ニシテ使用輕便ナル構造竝ニ一立坪ノ洗滌費及洗滌ノ爲メ砂ノ減

耗量各市ノ實驗承リタシ

提出者 小倉市

一八 蚊蟲科ニ屬スル蟲類(俗ニすむし又ハハヤリ蟲)濾過池内ニ棲存ス之レカ驅除又ハ撲滅方法ニ付實驗アル各市ノ意見承リタシ

本蟲ハ幼蟲時代ニ於テ河川ノ砂礫中ニ棲息シさなぎトナルヤ粘質絲線ヲ出シテ砂礫ニ巢クフ三、四月及九、十月頃一年二回巢拔シ蚊蝶ニ成變シテ飛揚シ盛ニ産卵ス卵ハ一、二箇月ヲ經レハ直ニ孵化シ貯水池ヨリ濾過池ニ流入シ(貯水池堰堤直下ニ濾過池アリ)濾砂ヲ攪亂ス(砂面下二三分ノ間)

提出者 小倉市

一九 水道經營上計量制ト放任計量併用制ト其ノ何レカ有利ナリヤ各地ノ實況承リタシ

提出者 廣島市

二〇 一時以下ノ量水器ニ於テ翼車式ト圓盤式ト其ノ何レカ可ナルヤ

提出者 廣島市

二一 緩速濾過水道ニ於テ微生物類及其ノ仔蟲卵等ノ濾床中棲息狀況ヲ調査セラレタル所アレハ其ノ狀況承リタシ

提出者 廣島市

二二 びすく式量水器ノ修繕方法ニ關シ各市ノ實況ヲ承リタシ

提出者 大阪市

二三 量水器ノ甚タシキ汚染及固形物等ノ附著セルモノヲ掃除スルニ酸類ヲ用ヒスシテ完全ニ之レヲ除去シ得ルノ方法アラハ其ノ實況承リタシ

- 二四 源水甚タシク溷濁シタル場合上水ノ最大濁度ハ何度ナリヤ各市ノ實例承リタシ  
提出者 大阪市
- 二五 地下埋設物ノ整理  
提出者 京都市
- 二六 水道使用者ノ戸口調査實施方法及人口認定方法ニ關シ各市ノ實驗ヲ承リタシ  
提出者 東京市
- 二七 計量給水栓ニ附屬セル量水器ニシテ水道ヲ使用セサル場合給水中止中ニアラスニ於テモ其ノ指針進行シタル實例アリヤ若シアリトセハ右防止方法竝ニ其ノ結果ヲ承リタシ  
提出者 東京市
- 二八 高壓ニ耐ユル木管ノ繼手ニ關シ研究シタルコトアラハ承リタシ  
提出者 小樽市
- 二九 貯水池ニ養魚ノ利害承リタシ  
提出者 小樽市
- 三〇 毎年一回以上水質ノ完全分析ヲ施行スルト同時ニ源水及濾水中ノ微生物ヲ生物學的ニ調査シ置ク必要ナキカ  
提出者 臺灣總督府
- 三一 比較的多量ノ遊離炭酸ヲ含有スル水道カ鐵管鉛管及こんくりトニ及ホス影響如何  
提出者 臺灣總督府
- 三二 鉛管代用品ニ關スル研究ノ必要ナキカ

三三 化學試驗方法中硫酸定性評語ノ意義ヲ協定スル必要ナキカ  
提出者 臺灣總督府

三四 げらちん及ペぶとんノ試験方法如何  
提出者 横濱市

三五 有機質(消費量檢定ニ於テ)かめれおんヲ加ヘ加熱スル際直火ト湯煎ト何レカ可ナルヤ  
提出者 横濱市

三六 船舶給水後其水質ヲ検査セラレシ所アレハ其成績ヲ承リタシ  
提出者 横濱市

三七 氣温及地温ノ水温ニ及ホス關係ヲ調査セラレシ所アレハ其成績承リタシ  
提出者 横濱市

三八 上水作業上濾過水ノ避ク可カラサル溷濁アリシ場合其ノ處置方法如何  
提出者 横濱市

三九 源水ノ溷濁セシ場合浮遊物ノ定量方法如何  
提出者 横濱市

### 報 告

一 太連ニ於ケル上水及海水中ニアル嫌氣性細菌ノ種類及數量報告  
提出者 南滿洲鐵道株式會社

二 くらゝく氏硬度檢定法ノ一新改良法ニ就テ  
提出者 南滿洲鐵道株式會社

提出者 南滿洲鐵道株式會社



- 三 最近十箇年大阪市上水水質検査成績  
提出者 大阪市
- 四 淡水水棲菌ト淡水藻類ノ相互關係調査成績  
提出者 大阪市
- 五 淡水水棲菌ノ増殖ニ關スル觀察  
提出者 大阪市
- 六 大阪市上水水源あるかり度測定成績  
提出者 大阪市
- 七 大阪市上水道藥物沈澱試験  
提出者 大阪市
- 八 硫酸礬土ヲ加入セル上水ノ一二合金腐蝕ニ關スル實驗  
提出者 大阪市
- 九 上水中あるみに、むノ一新檢出法  
提出者 大阪市
- 一〇 緩速砂層濾過池ノ濾過效力發生時間  
提出者 大阪市
- 一一 緩速砂層濾過池ノ使用期間  
提出者 大阪市
- 一二 東京市内堀井水既往十年間ニ於ケル水質試験ニ就テ  
提出者 東京市

- 一三 ばりむちつと濾過器ノ效力實驗ニ就テ  
提出者 東京市
- 一四 水中ノ微生物検査ニ就テ  
提出者 東京市
- 一五 協定法ニ據ル硝酸定量法  
提出者 東京市
- 一六 再ヒ亞硝酸ノ試験法ニ就テ  
提出者 東京市
- 一七 上水完全分析ニ際シ重量法ト比色法及比濁法トノ比較  
提出者 東京市
- 一八 雨量ト水質ノ關係  
提出者 臺灣總督府
- 一九 緩速濾過法ト急速濾過法トノ一般作用  
提出者 臺灣總督府
- 二〇 大腸菌族ノ研究  
提出者 臺灣總督府
- 二一 うるとらぐおれつと光線及よつおんノ淨水殺菌力  
提出者 臺灣總督府
- 二二 臺中水道水ノ鐵、鉛及之んくりと溶解度ニ就テ  
提出者 臺灣總督府

二三 上水中ニ於ケル鉛ノ溶解程度ニ就テ

提出者 臺灣總督府

二四 硅酸ノ簡易定量法

提出者 臺灣總督府

二五 第十四回問題七七ニ對シ遞信省電氣局専門家ノ講演ヲ乞フノ件

第十四回問題七七 第十二回上水協議會ニ於テ大阪市提出ノ研究問題タル單線架式電氣軌道ト並行シ若クハ之ヲ橫斷シテ敷設セル水道鐵管及鉛管ノ電氣分解作用ニヨル腐蝕ヲ防止スル簡易方法ハ之ヲ研究問題トスルモ其實例アラハ承リタシ

理由

本問題ハ曩ニ荒川工學博士ノ報告ニヨリ當市水道ハ努メテ其ノ意見ニ基キ實施スヘキ方針ナルモ恰モ右ノ如ク上水協議會ヘモ提出セラレ居ル事項ナルヲ以テ尙施行上參考ノ爲メ本年協議會ニ於テ各市ノ實施方法ヲ問ハントスルモノナリ

提出者 福岡市

### 研究問題

一 水道鐵管内部ニ簇生スル酸化鐵ノ疣狀發生ノ原因及之レカ防止法

提出者 岡山市

擔當者 東京市

二 配水鐵管内部面腐蝕ノ程度如何

提出者 下ノ關市

擔當者 東京市

- 三 毎年一回以上施行スヘキ源水竝ニ濾水ノ化學的完全定量分析ノ試験方法協定ノ件  
提出者 大阪市  
擔當者 各市
- 四 沈澱池ニ密生シタル硅藻ノ處置法如何  
提出者 大阪市  
擔當者 大阪市
- 五 源水ノ殺菌的處置法トシテくるる若クハくるる石灰(晒粉)ヲ使用スルノ可否ヲ調査シ置クノ必要ナキヤ  
提出者 大阪市  
擔當者 大阪市
- 六 微生蟲類ノ卵及其仔蟲ハ砂濾式水道ニ於ケル濾過裝置ヲ通過スルコトナキヤ  
提出者 岡山市  
擔當者 岡山市
- 七 濾過速度ト濾過效力トノ關係  
提出者 臺灣總督府  
擔當者 臺灣總督府
- 八 急速濾過法ニヨル淨水方法ニ於テ源水カ澄明ナル場合硫酸礬土ノ作用如何  
提出者 京都市  
擔當者 南滿洲鐵道株式會社、京都市
- 九 乾式濕式雨量水器ノ成績及耐久力ニ就テ

一〇 濾砂ノ形質ト淨水作用トノ關係  
 提出者 朝鮮總督府  
 擔當者 大阪市、神戸市、佐世保市

一一 藥物沈澄法ニ源水亞爾加里性ノ關係  
 提出者 朝鮮總督府  
 擔當者 東京市、京都市

一二 沈澱池ニ生スル土壤利用試驗  
 提出者 神戸市  
 擔當者 各地ノ實驗ヲ報告スルコト

一三 源水及濾過水中ニ發生スル藻類蘚苔蟲及淡水海綿ノ驅除法  
 提出者 神戸市  
 擔當者 神戸市、岡山市

一四 濾過水中ニ嫌氣性黴菌ノ存否  
 提出者 東京市  
 擔當者 東京市、南滿洲鐵道株式會社

一五 水中微生物ノ種類調査ノ件  
 提出者 東京市  
 擔當者 各地

一六 水中ノ魚類及微生物ト水質トノ關係

提出者 橫濱市

擔當者 各地

一七 源水竝ニ濾過水中ニ大腸菌ノ存否竝ニ年中ニ於ケル其蕃殖狀況

提出者 橫濱市

擔當者 東京市、門司市、神戸市、大阪市、朝鮮總督府

一八 うるとらダ、おれつと光線淨水殺菌力ノ價值如何

提出者 東京市

擔當者 臺灣總督府 (完)

## 大正七年度水害ノ概況

大正七年度ニ於ケル本邦水害ハ主トシテ七月八月及ヒ九月ノ颱風ニ因ルモノニシテ關西方面特ニ甚シク地方ニヨリテハ其雨量ノ多量ナリシニ於テ出水ノ洪大ナリシニ於テ將タ災害ノ劇甚ナリシニ於テ近年稀有ノ水害ナルヲ以テ左ニ其概況ヲ報セントス

### 七月颱風概況

七月六日ぐ。ひ島附近ニ在リシ颱風ハ北北西ニ進行シテ十二日朝日向灘ノ東方ニ現ハレソレヨリ東北ニ進ミ四國ノ西部ヲ貫キテ内海ニ入り更ニ中國西部ヲ横斷シテ日本海ニ逸出セリ從テ本州東部ニ於テハ雨量多大ナラス水害モ亦輕微ニシテ唯關西方面ニ於テ稍強度ノ降雨出水ヲ來シタリ

當時ノ雨量ヲ舉クレハ次表ノ如シ(但シ一府縣ニ於テハ測候所所在地及管内最大降雨地ノモノヲ掲ク)

府縣及地名	七月九日	十日	十一日	十二日	十三日	合計
東京						
鳥取縣						
鳥取市	四三・三	六三・七	四二・〇	六六・五	七・六	一七三・五
大山	一三一・〇	八二・〇	二五・二	二五・二		二三八・二
德島縣						
德島市	六・六	七・四	七六・九	七一・〇		九一・二
福原村	二二六・五	三三六・八	七一・〇	六・五		六四九・五
大分縣						
大分市	三九・四	二二三・一	二一八・七	六・五		四八二・二
宮崎縣						
宮崎市	五〇・三	一八五・四	三二〇・〇	五・七		五五〇・七
宮崎町	八・〇	五八・四	一〇五・一			一七一・五
神門	四三・六	二八七・〇	三三九・〇	二七・九		六六九・六
岡山縣						
岡山市	三〇・〇	二七・九	三・九	六一・八		一一三・二
古町	一五四・三	二八三・〇	四五・〇	四八二・三		八八三・六
山口縣						
三田尻町	一四九・〇	?	?	?		二〇三・〇
徳山町	一八八・五	?	?	?		二二六・八

九月暴風雨概況

南洋方面ヨリ徐々ニ北進シ來リシ低氣壓ハ九月十一日沖繩島ノ南方ニ於テ其進路ヲ北東ニ變シ九州四國ノ東南海上ヲ横キリ和歌山市附近ニ於テ上陸シ更ニ東北ノ方面ニ向ヒ奈良、三重、滋賀、岐阜、富山ノ諸縣ヲ過キテ日本海ニ入り更ニ北進シテ樺太ノ南端ニ達セリ爲メニ木邦西部ハ十二日夜來ヨリ降雨ヲ來シ十三、十四日ニ及ヒテ沛然タル豪雨トナリ十五日ニ到リテ漸ク霽レタリ當時ニ於ケル各地降雨量ヲ舉クレハ左表ノ如シ(但シ一府縣ニ於ケル縣廳又ハ測候所所在地及ヒ其管

内最大降雨地ノモノヲ掲ク

府縣及地名		九月十二日	十三日	十四日	十五日	合計
鳥取縣	鳥取市	一三・六	四七・七	缺		五一一・八
德島縣	德島市		二七・三	三八四・五		一七〇・八
	水屋平村		二七・五	一四三・三		二四五・八
大分縣	大分市	一二六・五		一七〇・三		二六六・五
	宮 孤	二二六・三				二一六・三
鳥根縣	松江市	六・二	五九・〇	一二三・〇		一八八・七
	掛合村	二〇・九	九〇・五	二一〇・五		三二五・〇
兵庫縣	香住村		五二〇・〇			
	豐岡町		一八〇・〇			
京都府	京都		〇・六	二四・九	〇・八	二六・三
	野間		九・四	三三五・一	五・〇	三四九・五
宮崎縣	宮崎町	一二五・〇				
	星倉	三九五・〇	一一・〇			四〇六・〇
岡山縣	岡山市	二一・九	六九・五	一一三・五	九一・四	一六七・四
	奥津		六七・一	一一三・〇	一八〇・一	三二九・九
香川縣	瀧宮村		三五〇・五	?	?	四〇二・八
	岡田村		三三四・〇	?	?	三八〇・三

次ニ各府縣中災害復舊費カ地租年額七分ノ一ヲ超過シ政府ニ補助ヲ申請セシ地方ニ就キ水害ノ概況ヲ述ヘ最後ニ其復舊費ノ概要ヲ掲ケントス

鳥取縣下水害狀況



七月ニ於テハ十日夜來ヨリ強雨アリ十一十二兩日ニ亘リテ豪雨連續シ山間部ニ於テハ總量二百耗以上ニ達シ千代川及日野川筋ニ於テ若干ノ水害ヲ醸セリ  
 九月ニ於テハ十二日以來多少ノ降雨アリ十四日未明ヨリ沛然タル豪雨トナリ風力亦烈シク夜半ニ及ヒテ縣下各河川ニ空前ノ大出水ヲ來スニ到レリ而テ雨量ハ東部地方ニ於テ特ニ多量ニ水源山地ニアリテハ五〇〇耗以上ニ達シ明治廿六年十月ノ大洪水ニ匹敵セリ雨量斯ク多大ナリシニヨリ各河川ハ何レモ非常ノ出水ヲナシ堤防護岸ノ缺潰ヲ來シ道路及橋梁等ノ破壞モ亦夥シク東伯郡ノ如キハ國縣道ノ橋梁殆ト全滅ノ有様ナリキ岩美郡ニ在リテハ千代川ノ流量多大ニシテ稀有ノ水位ヲ示シ山陰本線ノ鐵道橋ハ其橋面ヲ水中ニ没シ流水ノ疏通ヲ妨ケ爲メニ堤防ノ溢水遠ク上流ニ及ヘリ尙鳥取市ハ千代川破堤ノ爲メ未曾有ノ慘害ヲ被ルニ至レリ該破堤ハ十四日午後九時過ニシテ次テ同市水道堰堤ノ缺潰スルアリテ水量一時ニ市内ニ流下シ來リ夜半ニ到リテ水位ノ上昇益々甚シク市内ノ橋梁全部流失シ市及附近ハ一大湖水ニ變シタリ西町ノ如キハ浸水道路上約一〇尺ニ及ヒ比較的高所ニ位スル東町縣廳裏附近ト雖モ尙床上三尺ニ達セリ斯クテ漸ク減水シ全ク退水セシハ十六日午前ナリキ同市水道ノ貯水地ノ堰堤ハ土堤ニシテ一側ニ溢水溝ヲ設ケアリシカ當時ノ雨量著大ニシテ排水力足ラス遂ニ溢流缺潰スルニ到レリ當時ノ該市損害ヲ舉クレハ

建 物	流 失	損 失 額
倒 潰	二七棟	八、一〇〇圓
浸 水	一二七	三一、七五〇
家 財	五、九三七	二九六、八五〇
水害ニヨル家財損害		八九〇、五五〇
其他		一、一七六、〇〇〇

其他田畑作物ノ被害夥大ニシテ損失總額二、四二二、一八〇圓ニ達セリ左ニ全縣下ニ亘ル水害ノ概

516

要ヲ表示セリ  
鳥取縣下水害取調表

人 (人)	六九(死)	一六(傷)	三(行箱不明)
家屋棟數)	三三九(全潰)	九八一(半潰)	六九三(流失)
堤防(間)	一一四、三三二(缺潰)	二九六〇四(破損)	二四、八七二(床上浸水)
道路(間)	七二、一四四(埋没)	四九、〇一八(破損)	一〇、六五八(床下浸水)
橋梁(箇所)	三〇二(破損)	一、一五一(流失)	
田畑(町)	三、七七二(流失又ハ埋没)	二〇、六六七(浸水)	
山野(町)	五六九(被害)		

以上ノ損害ハ主トシテ降雨多量ニ河水暴漲ノ爲メナリシモ之ヲ技術上ヨリ視レハ其原因ノ主タルモノハ次ノ如シ

- 一 流量ニ對シ河幅ノ狭小ナリシコト
- 一 河狀ノ整齊ナラサルコト
- 一 川床勾配急ナルニ拘ラス護岸石垣ノ勾配急ニ失シ或ハ根固工事ノ不完全或ハ維持ノ不充分ナリシ事

- 一 山地崩壞ノ爲メ土石流下ノ衝突力強ク爲メニ石堤ノ大ナルモノモ抵抗力ノ薄弱ナリシコト
- 一 山地崩壞ノミナラス流路ニ於ケル堤防護岸ノ缺潰ニ依リ流亡セル田畝ノ土石河中ヲ埋塞シ隨テ引續キ破壞ヲ増大セシメタルコト
- 一 山地ノ荒廢セル事殊ニ蒲生川ノ上流蒲生峠附近野坂川及河内川ノ上流鷲峰山國有林及大山國有林ノ荒廢等ハ河川被害ノ根源ト認ムルヲ得ヘシ加勢陀川及佐陀川ノ上流ニ施行セシ大林區署砂防工事モ大略破壞セルカ如シ

一町村工事ニ就テハ川床勾配急ナルニ拘ラス川幅ノ狭小ナルト護岸石垣ノ法勾配急ナルト根固  
工事ノ施行ナキトハ被害ノ最大原因ヲナセルモノト云フヲ得ヘシ

### 兵庫縣下水害狀況

本縣下ニ於ケル水害ハ主トシテ次ノ四期トス

第一期 七月十一日十二日

第二期 八月二十一日二十二日

第三期 八月二十九日三十日

第四期 九月十四日十五日

第一期ハ主ニ播磨赤穂郡佐用郡ノ内岡山縣ニ接スル地帯ノ被害ニシテ當時雨量佐用七一耗赤穂  
六八耗安積九〇耗ニシテ低氣壓ノ中心ハ縣界以西ヲ通過セルモノ、如ク縣界分水嶺ヨリ東南ニ  
面スル溪谷ヨリ一時ニ多量ノ出水ヲ見溜池堤防ノ缺壞ハ一層汎濫ノ區域ヲ増大シ翌十二日再ヒ  
颯風豪雨ヲ伴ヒ前日ノ破壞ヲ更ニ増大シ幹流千種川ノ最高水位十八尺ニ及ヒタリ其他揖保郡宍  
粟郡養父郡等ノ被害之ニ次ク

第二期ノ水害範圍ハ氷上郡武庫郡二郡ノミニシテ其被害程度亦比較的少ニシテ篠山ノ雨量五〇  
耗ニ及ヒ降雨及出水ノ最大ナル地方ハ竹田川流域ニシテ其出水九尺佐治川八尺其他小支流之ニ  
準シ以テ今回ノ水災ヲ醸セリ

第三期ハ淡路島ニ於ケル津名三原兩郡ノ被害ヲ最トシ雨量ハ志筑一六〇耗洲本一八六耗郡家一  
八二耗ヲ算シ其一時ノ出水急激ニシテ津名郡育波村室津村淺野村佐野村等急傾斜ノ溪流ニ於テ  
總テ五尺乃至六尺以上ノ増水ハ幾多ノ溜池堤防缺壞ト共ニ益々被害ヲ増大セシメタリ  
第四期ハ即北但ノ水災ト稱スルモノニシテ日本海ニ面スル地方最モ甚シク被害ノ範圍ハ美方郡

城崎郡出石郡養父郡朝來郡三原郡等ニ亘レリ當時雨量ノ大ナルモノハ濱坂五〇八耗香住五二〇  
 耗村岡二四五耗豐岡一八〇耗等稀有ノ雨量ヲ示シ同時ニ烈風ハ北東ヨリ北西ニ變シ多數ノ山岳  
 崩壞シテ堤防橋梁家屋ノ破壞流失スルモノ夥シク多數ノ人命ヲ失ヒ其慘狀明治二十六年ノ水災  
 ニ過キタルコト遠シト云フ

此等水災ニ因ル損害程度ハ大略次表ニ示スカ如シ  
 兵庫縣水害取調表

種目	堤防		破損		埋没流失		道路		橋梁		港灣及海岸	
	個所數	延長	個所數	延長	個所數	延長	個所數	延長	個所數	破損	個所數	破損個所
水害個所及延長	三、一一〇	一、二二三、四五八	一、七五八	三、四、七二〇	一、〇四五	四三、七六三	二、〇八五	四四、三三九	一、〇二二	二、三三三	三七	

香川縣水害概況

本縣下ニ於ケル水害ハ主トシテ七月中旬八月下旬九月中旬ノ三回ニシテ被害ノ程度ハ九月ニ於  
 テ最モ大ナリ七月ニ於テハ本縣東部ニ水災甚シク家屋ノ破壞二百六十死傷十五ヲ算セリ八月二  
 十九三十兩日ニ亘ル颶風ハ前者ヨリ頗ル強烈ニシテ氣壓示度七三〇耗ニ及ヒ雨量モ亦日量三百  
 耗ヲ超ヘタル地方少ナカラス家屋ノ破壞流失四百戸死傷四十人ニ及ヒ道路河岸堤防橋梁田畑ノ  
 被害等夥シク就中小豆島南部ニ於テ慘狀殊ニ甚シク尙狂風怒濤ノ爲メニ海岸工事ノ破壞サレシ  
 モノ頗ル多シ

九月ノ颶風ハ十四日午前ヨリ豪雨ヲ降シ同午後六時頃最モ多ク一時間三一耗ニ達セリ而テ縣中  
 央部ノ降雨最モ多大ニシテ十四十五兩日ニ亘リテ四百耗ニ達セル所アリソレヨリ海岸ニ近クニ  
 從ヒ漸次其量ヲ減シ百五十耗内外ニ過キス今回ノ水災ニ於テハ家屋破壞三百死傷二〇人ニ達シ  
 其他道路橋梁河川田畑等ノ損害ハ前回ニ倍蓰ヤリ今諸川ノ水位ヲ縣下未曾有ノ大洪水ト做サレ

タル大正元年ニ比スルニ香東川筋ニ於テハ之ヲ凌駕シ木田内綾歌三豊郡内諸川ニ於テハ殆ント之ニ匹敵シ仲多度大川兩郡ニ於テハ之ニ及ハサル事遠シ而テ本縣諸川流路短小ニシテ水源ヨリ海口迄一瀉千里ノ勢ヲ以テ流下スルヲ以テ其ノ破壞的營力ハ頗ル多太ナリ尙本縣ハ地勢ノ關係上田用水ハ多ク溪間溜水ニ俟ツ次第ナルカ八月下旬ノ大雨ニ依リ池沼満水シ堤塘濕潤セル状態ナリシヲ以テ今回ノ出水ニ際會シテ池塘闕潰セシモノ頗ル多數ニシテ出水ニ比シ過大ノ損害ヲ被ラシメタリ

尙八月下旬ニ於ケル小豆郡ノ水害ハ同島空前ノ損害ニシテ島内橋梁ノ全部ヲ破壞又ハ流失セシメタリ

抑モ本縣ニ於テハ縣下河川ノ全部ヲ舉ケテ縣費支辨トナシ其數八百餘ニ達シ之ニ對スル經常費少額ニ失シ其維持修繕ノ全キヲ得ス且ツ管内狹隘ナルヲ以テ土地ノ利用其度ヲ過キ治水上ノ安全ヲ無視シタルカ如キハ水害ヲシテ愈々甚シカラシメシ主因ナルカ如シ

今年度水害復舊ノ爲メ縣ノ計上セシ豫算ハ別表ノ如シ

### 京都府水害概況

本縣下ニ於テハ八月下旬九月中旬及下旬ノ三回ノ出水ヲ見タリ就中九月中旬ニ於ケルモノ被害最モ激烈ナリキ當時ノ颶風ハ丹後西部ニ多大ノ降雨ヲ來シ熊野竹野中ノ三郡其被害最モ甚シク山岳ノ崩壞人畜ノ死傷道路橋梁ノ流失堤防護岸ノ破壞多數ニシテ熊野郡ノ如キハ橋梁ノ全部ヲ墜落シ又竹野郡鄉村ノ如キハ一部落ノ全滅ニ近キモノアリ被害ノ斯ク劇甚ナリシハ降雨量ノ多太ナリシニ因ルモノニシテ該地方ニ於テハ四〇〇耗ヲ下ラサリシナルヘシ丹波方面ニ於テハ由良川ノ水源タル北桑田郡鶴ヶ岡村方面ノ雨量多大ナリシ爲メ水位ノ増嵩甚シク橋梁ノ流失最モ多ク福知山町ノ一部ハ浸水セリ

德島縣水害概況

本縣下ニ於テハ七月中旬八月下旬及ヒ九月中旬ノ三回ニ亘リテ非常ノ出水ヲ來シ就中那賀川筋最モ劇甚ニシテ幹派川ヲ併セ破堤延長一、四七間ニ及ヒ人畜ノ死傷家屋ノ流亡田畑ノ荒廢等多大ナリ勝浦川筋ニ於テモ亦稀有ノ被害ニシテ其原因種々アリト雖モ主トシテ洪水量ニ比シ河積狹小ナルカ爲メ河水堤天ヲ溢流セシ結果ナリ

獨リ吉野川ニ於テハ上流ノ水位昇騰非常ナリシニ係ラス下流ニ於ケル水位割合ニ低ク從テ被害ノ程度モ亦輕微ナリシハ同川改修工事ニ依リ河積ヲ著シク擴大セルカ爲メナリ唯水流ノ激突ニ依リ根固工ノ破損堤腹ノ崩壞漏水等ノ局部的被害ハ之ヲ免ル、能ハサリキ尙颱風ニ因ル海嘯ノ爲メ海岸防波堤ノ缺潰スルモノ頗ル多シ道路ニアリテハ祖谷街道ノ被害最モ劇甚ニシテ清水越街道之ニ次キ上山街道讚岐街道等亦損害ヲ被レリ此等ハ主トシテ土留石垣ノ強度充分ナラスシテ豪雨ノ爲メ崩壞セルニ因ルモノナリ

大分縣水害概況

本年七月中旬ニ於ケル出水ハ明治二十六年以來ノ大洪水ニシテ雨量ハ東部海岸地方ニ於テ殊ニ多大ニシテ連續降雨五〇〇耗ヲ超エタル所少ナカラス本縣ノ河川ハ一般ニ河積充分ナラス今回ノ如キ大出水ニ際會セハ河水多ク溢流スルニ至リ從テ堤頂堤脚ヲ穿掘セラレ且ツ護岸根固ノ如キ維持修繕全カラス爲メニ堤體ノ缺潰ヲ來セルモノ多シ而テ橋梁ハ土橋多ク上流ヨリノ流木橋材等ノ衝突カ其流失ノ源因ヲ爲セリ

被害ノ最モ劇甚ナリシハ大野川筋及大分川筋ニシテ堤防缺潰延長前者ニ於テ七六九間後者ニ於テ五一二間ナリトス

道路ノ被害ハ橋梁流失ノ外顯著ナルモノナキモ海嘯激浪ノ爲メ海岸道路石垣ノ崩壞セルモノ少

ナカテズ

## 島根縣水害概況

本縣ニ於テハ九月十三日十四兩日ニ亘リ稀有ノ豪雨ニシテ東部殊ニ烈シク諸河川ハ一際ニ多大ノ出水ヲナセリ被害ノ主ナルモノハ斐伊川飯梨川伯太川等ニシテ斐伊川ニ於テハ河床沿岸ノ田面ヨリ遙カニ高ク水位ハ明治二十六年以來ノ高位ナリシヲ以テ所々溢流破堤ヲ來セリ飯梨川ニアリテモ河床ハ田面ヲ抜クコト三尺乃至十五尺高ク堤防ノ法亦急ナルヲ以テ多ク河水浸潤ノ爲メ裏法ノ崩壞ヲ來セリ

## 宮崎縣水害概況

本縣ニ於ケル七月及ヒ九月ノ暴風雨ハ明治四十二年以來ノ激烈ナルモノニシテ就中七月中旬ノモノハ縣下全般ニ亘リテ非常ノ豪雨ヲ降セリ九月中旬ノモノハ主トシテ南部ニ烈シク被害ノ區域モ亦大ナラス

道路ノ被害ハ主トシテ河岸道路ノ土留石垣カ水勢ニヨリテ缺壞セルモノナリ而テ橋梁ノ損害ハ多ク流材ノ衝突ニ因ルト雖モ大淀川ニ架セル花見橋延長八十五間ノ如キハ水位昇騰ノ爲メ橋體全部先ツ浮游流下シ次テ流木ノ爲メ橋脚ヲ流失セリ

河川ノ堤防護岸等ノ被害ハ頗ル多大ナリ一般ニ河川ハ堤防ヲ具備スルモノ乏シク洪水ノ汎濫ニ委スルノ狀態ナルモ護岸水制等ハ割合多數ニシテ唯平素ノ維持修繕充分ナラスシテ今回ノ災害ヲ大ナラシメタリ尙縣下各港灣ハ何レモ多少ノ被害ヲ免レサリシモ就中宮崎郡内海港ハ巨大ナル波浪ト内海川ノ出水トニ因リ防波堤約四十五間ノ崩壞ヲ來シ其他埋立地護岸荷揚場南岸ノ岸壁等ノ被害多大ナリキ

宮崎飢肥間鐵道ノ廣渡川鐵橋ハ左岸構桁一徑間ヲ殘シ他ハ全部流失シタリ

522

岡山縣水害概況

本縣下ニ於ケル水災ハ七月中旬九月中旬及ヒ十月中旬ノ三回ニシテ就中第一回ノモノ最モ激烈ニシテ雨量極メテ多ク吉井川水源ニ於テハ一時間八〇耗ニ達シ爲メニ同川ハ稀有ノ大出水ヲ見タリ

九月中旬ノ颱風ニ於テハ旭川筋吉井川筋ニ降雨最モ多ク其ニ一〇耗ヲ超エ高粱川筋稍少ナク七八耗ニシテ出水及水害ノ程度ハ旭川筋ニ於テ最モ大ナリ

前記三回ノ出水ヲ通シテ水害ノ最モ劇甚ナリシハ吉野川吉井川支流ニシテ加茂川(同上)旭川上流吉井川ノ下流等之ニ次キ高粱川及其他ノ諸川ニ於テモ被害ヲ受ケシ所尠ナカラス而テ被害ノ斯ク劇甚ナリシハ今回出水ノ多大ナリシニ因ルハ勿論ナルモ河川工作物ノ維持修繕ヲ今一層完全ナラシメハ其慘害ノ程度ヲ減シ得シナランカ道路ノ被害ハ主ニ前記諸河川ニ沿フモノニシテ其堤外地ヲ横キル部分ニ於テ特ニ甚シ而テ橋梁ノ流失セルモノ頗ル多數ニシテ國縣道ヲ通シ實ニ三百ニ庶幾カラントス流失橋梁ハ徑間五間ヲ出テサル木桁橋ニシテ高水位上ノ餘裕モ亦充分ナラザリシカ爲メ流材又ハ流下橋材ノ衝突ニヨリ斯クノ如キ慘災ヲ被リシモノ、如シ海岸工事ニ於テハ北木島及眞鍋島二港ノ防波堤ノ一部波浪ノ爲メ破損セシモノアルノミ

山口縣水害概況

本縣下ノ水害ハ七月十日ノ大雨ニ因ルモノニシテ被害ハ主トシテ佐波川筋ニ存シ全縣下被害ノ約六割七分ニ當リ天保七年以來ノ大洪水ナリキ堤防ノ溢水缺潰沿川道路ノ被損頗ル多ク本支川十個ノ橋梁ハ何レモ橋面水中ニ没シテ流失セリ其他山地ノ崩壞セルモノ夥多ニ及ヒ箇所二六九面積四一町步ニ達セリ

水害復舊費



各府縣ニ於テハ取敢ヘス復舊設計ヲ畫シ災害土木費國庫補助規程ニ依リ補助ヲ申請セルカ國庫  
 ハ同規程施行細則ニ依リ査定ノ結果左記復舊費ニ對シ夫々規程ノ補助ヲナスコトニ決セリ(但此  
 復舊費ノ内ニハ規程上一箇所三百圓未滿ノ工事ヲ除外セルモノナリ)

府縣	總復舊費	總災害費	總復舊費
鳥取	二,五四六	六,六九〇	〇〇四
兵庫	一,八八六	二,五四一	二,三三〇
香川	一,一三九	二,六五三	五,一〇〇
岡山	七〇〇	二,〇八五	一,二二一
徳島	五〇〇	九四四	四八三
京都	八四七	八〇一	三,四二二
大分	五五二	七九四	五,三七七
山口	三,四四	七九一	二,二二八
島根	二,二九	二,九五	一,八五
宮崎	一,三三	二,八七	八,七二
計	八,八八六	一五,八八四	五,一一二

尙此等ヲ各府縣ニ就キ道路橋梁河川海岸等ニ區別シ且縣工事及町村工事を分類シテ掲クレシ次  
 表ノ如シ

種別	縣		町村		合計	
	個所數	金額	個所數	金額	個所數	金額
取	二〇六	四九八,五八八	三三七	三五八,四九一	五四三	八五七,〇七九
河橋	一二三	三七六,九四八	一六六	一八七,七三〇	二八九	五六四,六七八
上水道	四六五	三,〇七七,三四〇	一,三四五	一,八四一,〇三四	一,七二〇	四,九一八,三七四
鳥	〇	〇	一	三三八,六八六	一	三三八,六八六

彙報 大正七年度水害ノ概況

種別	縣		町		合計			
	個所數	金額	個所數	金額	個所數	金額		
縣 橋	三	一一、一八七	〇	〇	三	一一、一八七		
	計	三、九六四、〇六三	〇	二、七三三、九四一	三	六、六九八、〇〇四		
	縣 庫 兵	一一〇	一三七、一五九	一二八	一〇一、六四三	二三八	二三八、八〇二	
		八二	一四二、〇三六	一二四	一〇〇、六〇二	二〇六	二四二、六三八	
		四二九	九五二、一五六	九八八	一、〇七八、一五五	一、四一七	二、〇三〇、三一	
		五	一五、五一六	一〇	一三、九六三	一五	二九、四七九	
		計	一、二四六、八六七	一、三五〇	一、二九四、三六三	一、八八六	二、五四一、二三〇	
		縣 川 香	五七	五六、九四九	五三	二九、一九四	一一〇	八六、一四三
			二五	四八、一五七	二七	二六、八三四	五二	七四、九九一
			九〇八	二、四〇八、九九八	一	〇	九〇九	一、四〇九、三〇六
			六〇	七四、〇八三	〇	三〇八	六〇	七四、〇八三
一			一、一八二	七	七、八〇五	八	八、九八七	
計	一、五八九、三六九		八八	六四、一四一	一、一三九	一、六五三、五一〇		
縣 山 岡	六五		七四、三六四	三四	二五、八三三	九九	一〇〇、一九七	
	六一	四一七、四七〇	一一一	一一七、二六八	一七二	五三四、七三八		
	二九一	三四三、一四五	一四五	一〇一、八三二	四三六	四四四、九七七		
	二	三、四七一	一	一、七三八	三	五、二〇九		
	計	八三八、四五〇	二九一	二四六、六七一	七二〇	一、〇八五、一一一		
	縣 德	七七	一四三、四〇二	六	六、七六九	八三	一五〇、一七一	
		一〇	一六、三一三	一	六六三	一一	一六、九七六	
二五六		五五〇、四八六	一二三	一一六、九三〇	三七九	六六七、四一六		
一		五六、一二二	一九	四六、四五四	二〇	一〇二、五七六		
計		一、五八九、三六九	二九一	二四六、六七一	七二〇	一、〇八五、一一一		
島 德		一	五六、一二二	一九	四六、四五四	二〇	一〇二、五七六	
	二五六	五五〇、四八六	一二三	一一六、九三〇	三七九	六六七、四一六		
	一〇	一六、三一三	一	六六三	一一	一六、九七六		
	七七	一四三、四〇二	六	六、七六九	八三	一五〇、一七一		
	計	八三八、四五〇	二九一	二四六、六七一	七二〇	一、〇八五、一一一		
	四一九	三四三、一四五	一四五	一〇一、八三二	四三六	四四四、九七七		
	二	三、四七一	一	一、七三八	三	五、二〇九		
	二九一	三四三、一四五	一四五	一〇一、八三二	四三六	四四四、九七七		
	六一	四一七、四七〇	一一一	一一七、二六八	一七二	五三四、七三八		
	六五	七四、三六四	三四	二五、八三三	九九	一〇〇、一九七		
計	一、五八九、三六九	八八	六四、一四一	一、一三九	一、六五三、五一〇			

崎 宮			縣 根 島			縣 口 山			縣 分 大			府 都 京			縣			
河	橋	道	河	橋	道	港	河	橋	道	港	河	橋	道	海	河	橋	道	港
計			計			計			計			計			計			
川	梁	路	川	梁	路	灣	川	梁	路	灣	川	梁	路	岸	川	梁	路	灣
三三	二二	三三	一五八	一四三	六	三〇〇	一六六	二二	一一二	四八九	三六四	五八	六七	四三一	二七六	三七	一一四	三五
五二	二二八、七〇七	二五、五四三	二〇八、二五九	一八七、五七七	一〇、三九〇	七四八、七〇一	三八七、八三二	二〇七、〇五六	一五三、四〇九	七四五、二〇六	五六七、五八〇	一〇八、一三四	六九、四九二	五〇一、九〇〇	三三二、九〇八	六四、七二六	九八、九六〇	七三三、六六七
三八	一	四	七一	三四	一六	四四	一一	二三	九	六三	三〇	一七	一四	四一六	二四一	九三	八〇	一四九
四五、五八六	八五四	二、二八八	八六、九二六	四〇、七三六	二六、七五六	四二、五二七	八〇、二二三	二九、五五五	四、四七二	四九、三三一	二〇、六六八	一八、三三九	七、三三七	二九九、四四二	一八二、九一八	一、三一七	四七、〇二六	一七〇、八二六
六九	二三	三七	二三九	一七七	二二	三四四	一七七	四四	一一一	五五二	三九四	七五	八一	八四七	五一七	一三〇	一九四	五〇〇
九七、三〇〇	一二九、五六一	二七、八三一	二九五、一八五	二二八、三一三	三七、一四六	七九一、三三八	三九五、八五五	二三六、六一一	一五七、八八一	七九四、五三七	五八八、二四八	一二六、四七三	七六、八二九	八〇一、三四二	五一五、八二六	六、六三三	一四五、九八六	九四四、四八三
							八八一											七、三四四

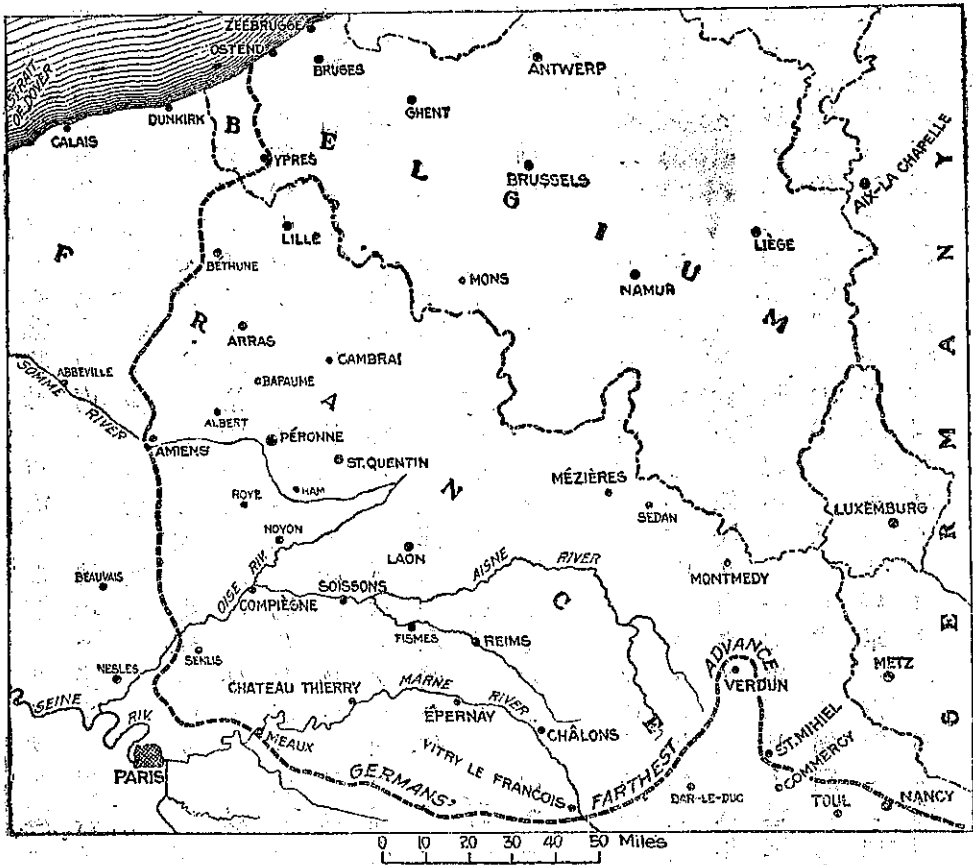
彙報 大正七年度水害ノ概況

種別	縣		町村		合	
	個所數	金額	個所數	金額	個所數	金額
港	四	三三、二八〇	〇	〇	四	三三、二八〇
橋	九〇	三三九、一四四	四三	四八七、三八	一三三	二八七、八七三
計						

### 佛國戰場ノ荒廢並ニ其復舊事業

本文ハ米國赤十字社巴里駐在員ナル George B. Ford 氏カ Engineering News-Record ニ報告シタルモノナリ(同誌 Jan. 30, 1919.)

歐洲大戰ノ戰場タリシ佛國東部地方ノ慘狀ハ筆紙ノ能ク盡シ得サル程度ニシテ自動車ニ由リテ此等市邑村落ノ址ヲ尋ヌレハ萬目荒涼タル荒原ノ中所在ニ建築物ノ廢墟ヲ目撃スルノミ然レトモ毒手ノ及フ所自ラ厚薄アリテ或ハ屋蓋ヲ有セサル四壁ノ矗立セルアリ或ハ僅カニ地階ヲ遺シテ他ニ殘骸ヲ止メサルアリ其甚シキニ至リテハ Vaux, Snippes ノ如ク石材煉瓦ノ破片以外殆ント一物ヲモ止メスシテ數年以前街衢整然車馬來往ノ巷タリシハ到底想像スル由ナキニ到レリ建築物ノ損害 而テ獨軍ノ進擊退却ノ迫急ナリシ地方ニ於テハ破壞ノ程度比較的輕少ニシテ兩軍ノ對持久シキニ亘リシ地點ハ其程度最モ劇甚ナリ例ヘハ一九一四年九月ノ急進ニ際シテハ建築物ノ被害頗ル輕微ナリシモ兩軍苦戰ヲ續ケタリシ Marne 戰場(即 Meaux, Sezanne, Viry-le-François 及 Reuilly 線)ニ於テハ其荒廢最モ慘澹タルモノアリ其他ノ激戰地タリシ Somme, Aisne 地方モ亦同様ニシテ戰線地ハ幅員一〇乃至一二哩ノ間殆ント完全ニ破壞シ盡サレタリ尙砲戰ニヨリ破壞サレタルモノ以外獨軍ノ退却ニ際シ故意ニ爆破シ去レル街衢モ亦少ナカラス一九一七年春ノ獨軍退却ニ際シテハ其初期佛軍ノ急迫ニヨリ蒼惶陣地ヲ棄テ去リシモ Peronne, Ham, Noyon 線以來ニ於テハ稍餘裕ヲ得往ク往ク市街村落ヲ破壞シ耕地樹園等ヲ荒廢センメタリ激戰地タリシマルヌ(Marne)州

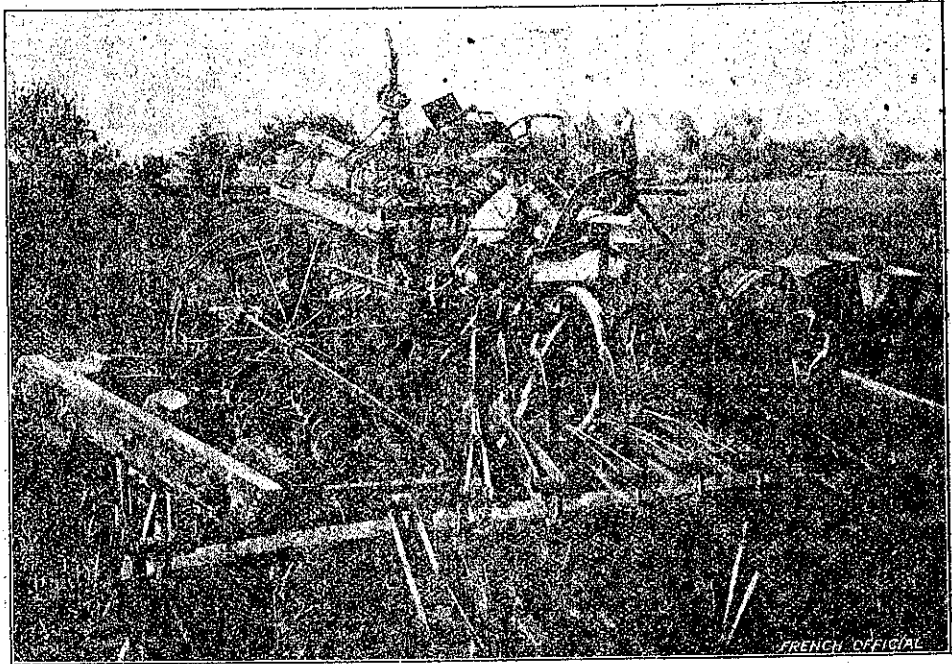


ニ於テハ、二五八ノ市町村(全々破壊  
 サレタル家屋三五〇〇半破ノモノ  
 一二、〇〇〇)ヲ破壊シ、獨軍側ニ寄リ  
 シ、四〇ノ町村ヲ殘セリ、(Mense)  
 州ニ於テハ、五九市町村(全潰家屋一  
 八〇〇半潰七〇〇)ヲ破壊シ、(Vosges)  
 州ニ於テハ、五三ノ市町  
 村家屋全潰一二五六半潰二、〇〇〇)  
 ヲ破壊セリ、此等ノ損害ハ、主トシテ  
 なる、(戦當時ニ行ハレタルモノナ  
 リ、なる、(Châlons ヨリ西方  
 Reuilly, Bar-le-Duc 及 Verdunヲ經テ  
 St. Mihiel, Commercy ニ達スル地方ノ  
 農村ハ、榴霰彈ノ爲メニ甚大ナル損  
 害ヲ被リ、其地域延長一五〇哩、(Nancy)  
 五乃至一〇哩ニ達ス、(Nancy)  
 附近ハ、被害稍少ナルモ、其東部及北  
 部ニ於テハ、損害再ヒ慘烈ヲ極ム、即  
 Lunéville, Gerbenliller, Ramberviller, St.  
 Dié 諸州ヨリ、(Alsace) 州境

ニ到ル迄ハ多クノ建築物殊ニ市街ハ形骸ヲ止メサル迄ニ破壊シ盡サレ戦線ノ後方ニアル市街村落ニ於テモ獨軍ノ砲火線内ニ存スル地域ハ多少ノ損害ヲ免ル、能ハサリシカ殊ニべるふるるる。るだ、く、なんし、一、等ノ後方ニ於テ然リ

一九一七年三月をんむ戦ニ於ケル獨軍退却ニ際シテハ建築物ノ破壊ハ主トシテ放火ニ依リテ行ハレタルヲ以テ多クノ建築物ハ其ノ外廓ヲ殘セルヲ以テ屋根窓戸等ノ新設ニ依テ復舊シ得ヘシト雖モ東部のわいよんヨリはむニ到ル間及北部ニ於テハ退却ニ際シ充分ノ餘裕ヲ有セシヲ以テ破壊ノ目的ヲ以テ組織的ニ放火又ハ爆破ヲ爲セルヲ以テ其被害根本的ニシテ時トシテハ町村ノ廢墟ヲ横斷スルモ尙且其殘跡タルニ氣付カサル如キ程度ノモノアリ而テ一九一八年三月及五月ニ於ケル獨軍前進ニ際シテハ榴霰彈又ハ爆發ニ依リテ多數ノ大都會名邑ヲ破壊シ Hazebrouck, Bohune, Arras, Albert, Compiègne 及 Rheims 等ニ於テハ殆ント街衢ノ殘存スルモノナシ昨秋獨軍ノ退却ニ際シテハ前回一部ノ破壊ニ止メタリシをんむ、え、い、ぬ、お、あ、い、ず及はむ南西ノ大地域ヲ根本的ニ破壊シ盡セリ

而テ當時 Peronne 及 Bapaume 附近ニ於テハ最早破壊スヘキ何物モ存在セサリシナリ昨秋聯合軍カ奪回セシ佛國領土ハ約八〇五〇平方哩ニシテ全佛國廣袤ノ約三%ニ當リ二、〇〇〇ノ市町村ヲ含ミ戦前ニ於テハ約二百五十萬ノ住民ヲ有セリ一九一八年三月及五月ノ前進ニヨリテ獨軍ノ占領セシ地域ハ二、三〇〇平方哩ヲ超エ一九一七年三月ノ退軍ニ於テ失ヒシ所ハ一、五五〇平方哩ニ達セリ此等ハ延長八〇哩最大幅員二五哩ニ達シ全佛國ノ〇五%ノ面積ヲ占メ五〇〇ノ市町村ト三二五萬ノ人口ヲ含メリ四年以前ニ於テ獨軍ノ占領セシ地域ハ一萬五千平方哩即チ全佛國ノ約五%ヲ超エ三五〇〇ノ市町村四百萬ノ人口ヲ含ミ而モ佛國中工業最モ發達シ農業最モ繁盛ノ地方ナリキ



佛國中侵略破壞サレタル地域ノ總面積ハ六、〇〇〇平方哩ニ亘リ實ニ佛全城ノ二%ニ達シ住民二百萬ヲ有セリ一方佛軍カあるさすニ於テ占領セシ地域ハ約四五〇平方哩ニシテ半潰ノ市邑たん(Thann)ノ外方ニ於テハ殆ント被害ノ擧クヘキモノナシ

あるさす—ろいれいぬ全州ハ地域六千平方哩ニシテ人口一、八七四、〇一四(一九一〇年調査)ヲ有セリ該州ハ約百萬エーカーノ森林ヲ有シ主要農産物ハ牧草及馬鈴薯ニシテ鑛産物ノ年額ハ石炭三、五三八、七二二噸鐵鑛二〇、〇八三、二三八噸及ぼったーしゅー一〇二、六四四噸ナリ就中製鐵業最モ盛大ニシテ二、九〇八、二三〇噸ノ銑鐵及ヒ一、四四四、九五三噸ノ鋼鐵ヲ產生セリ紡績工場ハ五、六九一ニ達シ八〇、四二三人ノ従事員ヲ使用シ百九十萬ノ紡錘ヲ有セリ白耳義ノ被害モ亦甚大ニシテ破壞ニヨル損害約二十億弗掠奪及徵發ニ依ル損害亦二十億弗ニ達シ其内十一億五千萬弗ハ工場ニ於ケル機械設備器具等ノ損害ナリ而テ約十五萬ノ労働者ハ獨國ニ徵發サレタリ白國ハ總面積約一

萬二千平方哩ニシテ戰前七、四二三、七八四ノ人口ヲ有シ其森林面積ハ約百五十萬ヘーカニシテ農産物ハ年額三、二五三、〇六七噸ノ馬鈴薯一、七〇二、五三五噸ノ砂糖甜菜及多量ノ燕麥、ライ麥及小麥等ヲ産セリ石炭ノ産額ハ約二、九七二、〇〇〇噸ニシテ一四五、六七〇人ノ勞働者ヲ使役シ製鐵業ハ二、三〇一、二九〇噸ノ銑鐵ヲ産出シ紡績業ハ一、四九二、二五八ノ紡錘ヲ有セリ一九一三年ニ於ケル政府ノ收入ハ一億六千萬弗ニシテ國債總額ハ約七億五千萬弗ナリキ

一九一七年七月二十四日佛國內務省ハ戰線ノ内側ニ於ケル被害ノ詳細ナル報告ヲ爲セリ該報告ハ前年五月ノ報告以後ニ關スルモノニシテ一縣一、二二三市町村ニ亘リ前者ハ一〇縣七五四市町村ヲ含メリ此等ノ市町村ハ凡テ多少ノ損害ヲ被リ而モ戰線ニ最モ接近シテ調査不可能ナリシ四五〇市町村ヲ除外セルモノナリ而テ一九一七年春期ノ前進ニヨリテ回復セル市町村ハ四九九ニシテ獨軍占領ノ全地域即二、五五四市町村ヲ二、〇五五ニ縮少セシメタリ此等ノ地域ハ最モ肥沃ナル農業地ニシテ佛國ノ穀倉トモ云フヘカリシ地方ナリキ一九一六年度報告ニハ被害家屋四六、二六三戸ナリシモ翌年ニ於テハ一〇二、六九七戸ニ達シ其内五〇、七五五戸ハ全々破壊シ盡サレタルモノナリ而テ戰後ノ概算ニ依レハ佛國中損害ヲ被リシ家屋ハ約五十萬戸ニシテ其半數二十五萬戸ハ完全ニ破壊セラレタルモノナリト云フ戰前ニ於テ此等家屋ノ平均價格ハ約五千弗ニシテ今日之ヲ新築セントセハ少ナクモ其二倍半ヲ要スヘク建築物ノ總損害ハ政府技師ノ見積ニ由レハ約六十億弗ニシテ建築協會ニ由レハ約四十億弗ナリト云フ

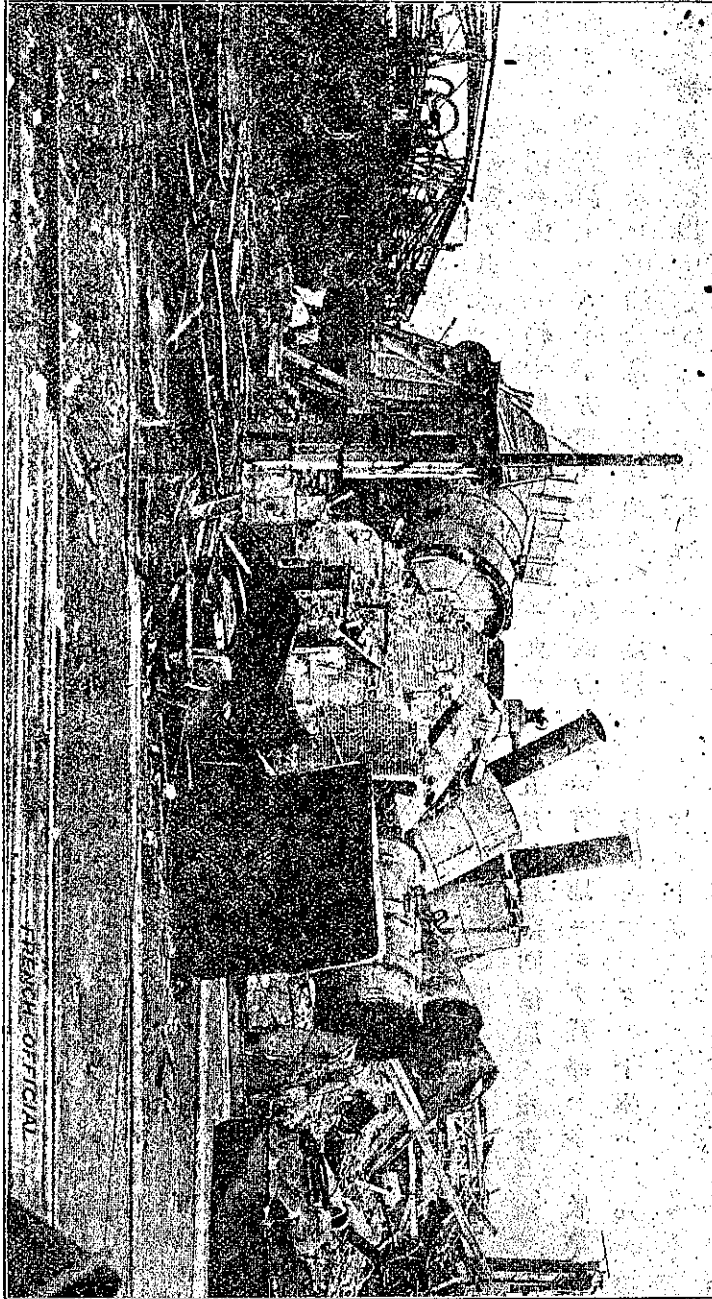
公共工事ニシテ破壊又ハ掠奪サレタルモノ、回復ニ要スル費額ハ約二十億弗ニ上リ内三億弗ハ大北鐵道一億五千萬弗ハ東部鐵道約五千萬弗ハ其他ノ鐵道ニ屬スルモノナリ大北鐵道ノミニテモ一、七三一ノ橋梁ヲ失ヒ三三八ノ停車場ヲ破壊サレタリ尙破壊サレタル運河ノ再築ニハ約二千萬弗ヲ要スヘシト云フ



一九一七年ニ於テハ建築ノ半以上ヲ失ヒタル市町村五二七ニ上リシカ今日ニ於テハ其數約一五〇〇ニ達セルナルヘシ而テ同年ニ於テ家屋ノ八〇%以上ヲ破壊サレタル市町村ハ四〇〇ニ達セシカ是レ亦今日ニ於テハ約一千ニ及フヘシ一九一七年夏ノ調査ニ依レハ四三五ノ市町村廳六〇〇ノ學校四七二ノ教會堂其他三七七ノ公共建築物ヲ失ヒタリシヲ以テ今日ニ於テハ破壊サレタル教會堂ハ約一、二〇〇學校約一、五〇〇ノ多數ニ上ルヘシト云フ

**農工業ノ損害** 一九一七年ニ於テハ工場ノ破壊サレタルモノ四一四ニシテ戰前十萬五千人ノ生計ヲ支ヘタルモノナリ從テ今日ニ於テハ約五十萬人ヲ生活セシムヘキ一千ノ工場ノ破壊ヲ豫想セサルヘカラス前年十月二十六日付内務省ノ報告ニ依レハ新ナル材料ヲ以テ改築セサルヘカラスル建築物ハ七九〇市町村ニ亘リ四一、二二三戸ニシテ所要石工材料ハ石材百七十萬立方碼煉瓦六十萬立方碼石灰三十萬噸等ニシテばど、かれ一州ヲ最トシむいと、えも一ぜる州之ニ次ク其他木材二億立呎鐵材三萬三千噸屋瓦九千一百萬すれいと三千二百萬枚等ナリ而テ今日ニ於テハ凡テノ損害ハ約五倍ニ達シ居ルヲ以テ佛國戰場再建事業ノ如何ニ困難ナルカハ想像スルニ難カラス造作家具機械類等ノ損害ハ政府技師ノ見積ニ依レハ少ナクモ二十二億二千五百萬弗ニ上リ保險會社技師ノ見積ニ由レハ約十億弗ニ及ヘリ一九一八年五月付農業回復局ノ報告ニ依レハ當時敵手ニ在リシ佛國領土ハ八千平方哩ニ及ヒ其約四分ノ三八可耕地ニシテ殘部ハ多ク牧草牧畜ノ好適地ニシテ凡テ是レ歐洲最良ノ農産地タリ一度侵略サレ後回復サレタル十州ハ一九一三年ニ約四億弗ノ穀物ヲ産出セリ此等ノ平均收穫ハ一エーカーニ付キ小麥三二ぶっしゑる(一ぶっしゑるハ約二斗)ニシテまるぬ地方ニテハ二十二ぶっしゑるニ下リむいと、えも一ぜる州ニテハ一七ぶっしゑるニ過キス此等被占領區域ハ全佛可耕面積ノ一五%ニ當リ其生産物ハ實ニ全國ノ二割ヲ上レリ而テ居住農民ハ約八十萬七千人ニシテ全佛農民ノ一割ニ當リ其内約二十五萬エーカーハ

全々復活ノ望ナシト云フ  
此等地方ニハ凡テ二十五萬ノ農場アリ中二五えーかー以下ノモノ十一萬二五乃至二五えーかー



FRENCH OFFICIAL

ノモノ十萬二五乃至一〇〇えーかーノモノ二萬六千及一〇〇えーかー以上ノモノ五、五〇〇ヲ算  
ス此等農場ハ佛國他地方ト異ナリ大部分ハ工場従業人ノ所有ニシテ即小農場ノ大多數ヲ占ムル

所以ナリ此等農場ノ投下資本ハ總額四億弗ニ上リ即一農場當リ千六百弗ノ割合ニシテ今日農地ノ價格ハ戰前ニ二倍セルヲ以テ農地總價格ハ八億弗ニ達スヘシ

次ニ家畜ノ損害ヲ舉クレハ一九一三年此等地方ノ有セシ六十萬頭ノ馬匹ハ一九一五年ニハ已ニ二十四萬頭即約六割ヲ減シ其他雜畜ハ約八十五萬頭即五五%ヲ失ヒ豚三十八萬頭即五五%ヲ失ヒタリ小麥圃ハ百三十萬えーカ一牧草地ハ八十五萬えーカ一ヲ減少セリ而テ農業ノ總被害ハ生畜穀物森林器具等ヲ合セ損失額約二十億弗ニ達セリ

戰前ニ於テ佛國ハ年額五九四〇七〇〇噸ノ石炭及九一六六〇〇噸ノ乙ーくすヲ消費セシカ内國內産ハ石炭四〇八四四〇〇噸乙ーくす三五七〇〇噸ニシテ不足額二七三八九〇〇噸ハばれんしやん平地ヨリ輸入セリ而テ全佛國産出石炭ノ約七割ハ侵略地方ノ産出ニシテ而カモ其品質最上ノモノナリキ全佛炭山鑛夫ハ二〇三二〇八人ニシテ内十四萬ハ該地方ニ屬シ炭坑地方ニテ生計セル者ハ約七十五萬ニ達セリ尙炭坑機械ノ損失ハ二億弗以上ニ達スヘシト云フ戰前佛國ノ産出セル鐵鑛ハ約二一九一八〇〇噸ニシテ内一九六二九〇〇噸ハビーと、えもーぜる州ノ *Brixy & Longwy* 谷地ヨリノ産出ニシテ即總額ノ九割ニ上リ其内一六五〇〇〇噸ハ獨軍ノ手中ニ在リキ鐵山地方ニ生計スル住民中約十五萬ハ戰爭ノ爲メ失業スルニ到リシナリ鐵鑛業及製鐵工業ノ失ヒタル機械ノ損失ハ五億弗ニ達シ戰前三〇〇萬噸ノ鋼材ヲ産出セシ地域ハ獨軍ノ侵略スル所トナレリ佛國總産鐵額ハ約四六八六〇〇〇噸ナルヲ以テ實ニ六割五分ニ達スルモノナリ

鐵以外ノ鑛業ハ主トシテ佛國ノ中部ニ在ルヲ以テ被害比較的大ナラス化學工業モ亦同様ニシテ損害著シカラス次ニ紡織工業ニ於テハ戰前佛國ノ有スル總紡錘七五三〇〇〇〇本中戰場地方ニ存スルモノ四百五十萬錘ニシテ其殆ント全部ハ破壊サレ掠奪サレタリ毛紡錘ハ總數二三六五〇

○ニシテ戰地ニ在リシモノ約二〇〇萬ニ達ス麻紡錘 (Linnen spindle) 五五萬中戰地ニ屬シ破壊掠奪セラレタルモノ五〇萬ニ上レリ織機ニ於テモ一四萬中約八萬ヲ失ヒタリ而シテ此等纖維工業ノ機械總損失額ハ一億二千萬弗ニ上レリ佛國ノ所有セシ二一〇ノ精糖工場中一四〇又三〇〇ノぶらっしの工場ノ中二〇〇ハ破壊サレ機械ノ損失ハ約二五〇〇萬弗ニ達セリ總計出力三〇萬きろわつとノ發電所及價格五千萬弗ノ電氣諸設備ヲ破壊サレ尙酒造所ニ於テ二五〇〇萬弗機械工場ニ於テ一億弗鑄物工場其他ニ於テ六千萬弗ノ器械類ハ破壊又ハ掠奪シ去ラレタリ而シテ此等ノ設備器械ハ今日ニ於テハ戰前ノ三倍ニ價スルヲ以テ其回復ノ爲メニ要スル費額ハ實ニ四十億弗ニ達スヘク尤モ此内ニハ原料品及鑛山ノ損害ヲモ含メリ佛國ハ戰前約三百萬噸ノせめんトヲ生産セシニ一九一八年二月ニ於テハ其額僅カニ四〇萬噸ニ過キス是レ主トシテ使用石炭ノ缺乏セル爲メナリ農務省山林及給水局ノ計算ニ依レハ破壊サレタル森林ハ一二〇萬えーカニシテ其ノ大半ハ政府又ハ市町村ノ所有ナリ其他戰中占領區域内ニ在リテ多年ノ間手入ヲ缺キシ爲メ著シク價値ヲ下ケタル山林約七五萬えーカニ達スルヲ以テ其約三分一ヲ加算スル時ハ山林ノ總被害ハ一五〇萬えーカニ達シ失フ所ノ材積二〇億立呎ニシテ佛國ハ建築材ノ約一〇ばいせんと薪炭材ノ約六五ばいせんとヲ失ヒシナリ一方戰前佛國ニ於ケル建築從業人ノ總數ハ七五萬人ニシテ内七萬五千ハ戰場地方ニ生活セリ且ツ戰前一年間ニ建築セシ家屋ハ今回破壊サレタルモノ、七ばいせんとニ過キササルヲ以テ五〇萬ノ從業人ヲ以テ復舊工事は着手スルモ尙二〇年ノ長日月ヲ要スヘシ即今回戰場ノ巷タリシ北佛全地域ニ亘ル建築物農業工業及公共設備等ノ損害ヲ累計スレハ實ニ一三〇億弗ノ鉅額ニ達ス而シテ此數字ハ Dubois 氏ノ報告ニ依ルモノニシテ吾人カ諸種公私報告書ニ照シテ之ヲ調査セル結果ニ依レハ少シク高額ニ過クルモノ、如シ佛國ノ復舊事業 一九一四年十二月初旬當時ぼるどー (Bordeaux) ニ在リシ佛國政府ハ侵略サレ



タル地方ノ應急復舊費トシテ六〇萬弗ノ支出ヲ決セシガ次テ議會ハ該地方住民ノ緊急救濟ノ爲メ六千萬弗ノ支出ヲ可決セリ

一九一八年八月五日戰場救濟省長官ノ報告ニヨレハ該豫算中三六〇〇萬弗ヲ支出シ其地方分配額ハ次ノ如シ即チ  
 一 汝州三〇〇萬弗、そんむ州二〇〇萬弗、わが州一五〇萬弗、ひいと、えも、いぜる一四〇萬弗、えい、汝州一三〇萬弗、ひいず州一〇〇萬弗、ぼいち州五〇萬弗、せい、え、ま、る、汝州五〇萬弗、のる州五〇萬弗、全地域ニ關スルモノ二五〇萬弗ニシテ其他六〇〇萬弗ハ破壞坑道ノ復舊ニ使用セラレ他ノ六テタリ一九一六年内務大臣ハ戰場復舊ノ策ヲ立テ同年五月之ニ關スル各省事業ヲ統一センカ爲メ別ニ各省長官會議ヲ設ケ同年九月ニハ侵略地方ノ市街再興ノ爲メ各地方ニ對シ市邑計劃案ヲ募集セリ次テ一九一七年初頭更ニ戰場地方ノ救濟再築及移轉自由ナル工場ばらくノ建造等ノ爲メニ一部局ヲ設ケタリ同年八月議會ハ商務及農務兩省ノ支出ニ對シ二〇〇萬弗ヲ可決シ以テ農工業ノ回復ニ充當セシメ同年秋戰場再建並ニ荒廢セル土地ノ回復ノ爲メニ公共事業省中ニ一部局ヲ設ケタリ

一九一七年十一月ニ及ヒ此等事業ヲ統一センカ爲メ敵國封鎖及戰地復舊ヲ司ル一省 (Ministry of Blockade & the Liberated Regions) ヲ設ケ M. Lebmann 氏長官ノ任ニ就ケリ而シテ戰場救濟事務ハ四部局ニ分レ一總務局—侵略地方住民ノ一般的救濟ヲ司ル二工務局—建築物ノ再建荒廢土地ノ回復等ノ工事ヲ司ル三農務局—農業山林ノ復舊ヲ司ル四工業局—破壊サレタル工業ノ復舊ヲ司ル等トナス而シテ農務局ニ對スル決定豫算ハ六〇〇〇萬弗ニシテ中二〇〇〇萬弗ハ運轉資金トシ工業局ニ對シテハ五〇〇〇萬弗ニシテ運轉資金二〇〇〇萬弗ナリ既記各省長官會議ノ外議會ニ侵略地方議員ヨリナル委員會ヲ組織シ救濟ニ關スル政府事業ノ一切ヲ監視ス休戰成立後兵器省ヲ變シテ工業復舊省ト爲シ戰地復舊省工業局ノ業務ヲ繼承シ尙全般ニ亘リテ軍需品製造工場ノ平和的改造ヲ司ランメ之ニ對シ四億弗ノ豫算ヲ可決セリ同時ニ救濟省ニ新ニ部局ヲ設ケテ他省トノ交渉及經理事務ヲ司ラシメタリ政府ハ避難者ノ歸還スルモノニハ直ニ衣服食糧住居給シ且ツ必要ナル器具器械ヲ與ヘ損害賠償ノ前渡金ヲ交附シテ恒久的ノ復舊再建ヲ助成セントシ此等ノ爲メニ三、四〇〇萬弗ヲ支出セリ而シテ賠償前渡金トシテ交附セシ額ハ一九一八年三月迄ニ已ニ二、八〇〇萬弗ニ達シ工業復興ノ爲メ約一、〇〇〇萬弗ヲ下附セリ其他荒廢地回復ノ爲メ農業者ニ下附セルモノ一、二〇〇萬弗ニ達セリ此等損害賠償ニ關スル議案ハ已ニ一九一八年初頭ニ於テ提出サレシカ被賠償者ニ對シ舊狀回復ノ義務ヲ負擔セシムヘキヤ否ヤニ關シ未タ決定スルニ到ラスト雖モ其議決ヲ見ルハ數週ノ近キニアルヘシ

一方戰地復舊省ハ復舊希望省ニ對シ賠償前渡金ヲ下附シ其金額ハ戰前見積價格ノ九割トス然レトモ諸物價ハ戰前ノ約二倍ニ騰貴セルヲ以テ戰前同様ニ復舊セントスル爲メハ該前渡金ノ二、二倍ヲ要スヘシ一九一八年十二月十二日法令ヲ發布シテ新建築ノ爲メ破壊材料ノ徵發ヲ可能ナラシメタリ工務局ノ事業トシテハ過去二年間ニ戰地諸地方ノ要求ニ係ル諸種ノ修繕工事ヲ施行

セシカ主トシテ一九一七年春獨軍ノ退却セシめんむえいぬわす地方ニシテ獨人俘虜一〇〇〇  
 及地方民一〇〇〇ヲ使役セリ尙破壊ノ程度大ナラサル建築物ハ之ヲ修繕ノ上下附シタルカ穀倉  
 畜舎其大部ヲ占メタリ此等ハ一九一八年ノ獨軍前進ニ依リテ再ヒ其大部ヲ破壊セラレシモ昨秋  
 ノ退却後ハ着々トシテ修繕事業ヲ進捗セシメツ、アリ主トシテ一九一四年ニ破壊セラレタル  
 るぬむいずむゐる、えもいぜる諸州ニ於テ殊ニ戰線ヲ離ル三〇軒以上ノ内地ニ於テハ復舊工事ヲ  
 永久的工法ニ依テ行ヒタリ多數ノ農家及幾多ノ市邑ハ地方技師ノ監督ノ下ニ請負業者ノ手ニ依  
 テ再建サレシヤんすゝるまゐるぬ及ヒビとれゝる、ふらんそあ地方ニ於テ一二乃至一五ノ農村ハ  
 組合ヲ組織シテ再建ヲ計レリ該組合ハ地方ニ於ケル有資産者ヨリ成リ建築技師及請負業者ヲ使  
 用セシカ工期ニ於テモ工費ニ於テモ頗ル良好ナル成績ヲ舉ゲ得タリ而シテ再建ニ當リテハ政府  
 ヨリ材料其他ノ諸種便宜ヲ與ヘラレタルハ勿論出來得ルタケ多額ノ賠償前渡金ヲ受ケ必要ナル  
 建築物ノ四分ノ一ヲ完成シ得タリ建築物ハ多ク穀倉ニシテ其數一〇〇ヲ超エ工費二三萬弗ニ達  
 ス其他工務局ハ全國ノ請負業者ニ命シテ二室及物置ヲ有シ解體運搬シ得ヘキ木造家屋二五〇〇  
 〇棟ヲ造リシカ各七〇〇乃至一〇〇〇弗ヲ費シ尙各一五〇乃至八〇〇弗ヲ値スル同様ノ農舎一  
 〇〇〇〇棟ヲ築造セリ此等ノ中三〇〇〇乃至四〇〇〇棟ハめんむえいぬわす地方ニ設置セシ  
 カ昨春獨軍ノ前進ニ際シ盡ク破壊シ去ラレ今日ニ於テハ一〇〇〇乃至二〇〇〇棟カ戰跡地方ニ  
 存在セルモ解體運搬ニ多大ノ勞力ヲ要スルヲ以テ稍不便ナリ然レトモ休戰以後勞力ニ多大ノ餘  
 裕ヲ得シノミナラス昨夏八月十日ヘたん(Pasien)將軍ハ各團各隊ニ命シテ軍隊カ一地方ニ滞在數  
 日ニ亘ル場合ニハ復舊擔任技師ニ申出テ建築殘骸ノ取片付ケ道路水道ノ修繕又ハ農事等ニ助力  
 スヘキヲ命セリ次テ九月六日戰地復舊省ノ長官ハ地方技師及町村長ニ命シテ軍隊ノ助力ヲ俟ツ  
 ヘキ諸事業ノ調書ヲ準備セシメタリ尙全般的復舊事業ノ爲ニ政府ハ建築材料ノ購買ヲ司ルヘキ

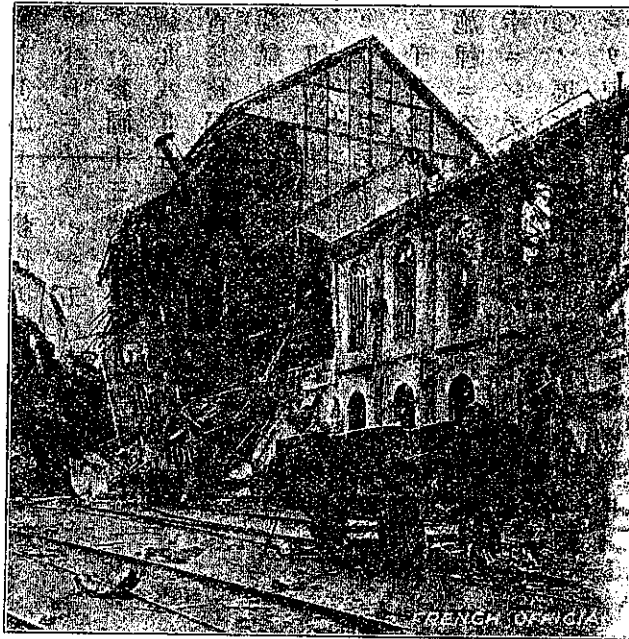
一局ヲ新設シ該局ニハ六千萬弗ノ豫算ヲ附與シ内ニ二千萬弗ハ復舊事業ニ從事スヘキ從事人ノ住宅及食糧ニ使用シ得ヘキモノナリ建築材料ハ政府ノ貯藏場ヨリ申出ノ順ニ遵ヒ請負業者組合ニ下附セラルヘシ而シテ十二月十三日ニハ陸軍省ニ於テ此等從業者又ハ避難民ニ必要ナル假舎ノ貸附及組立ヲ司ル事トナレリ一九一八年六月戰地復舊省ハ私有工場ニ對シ椅子、卓子、食器、衣服、糊等七五〇〇〇個ノ注文ヲ發シ續テ八月下旬窓戶類ノ注文ヲ發シ内ニ二〇〇〇〇ノ外戸四二〇〇〇ノ屋内戸三七〇〇〇ノ硝子窓二五〇〇〇ノ透窓ヲ含メリ今日ニ於テハ續々此等ノ注文ヲ發シ殊ニ戰時ノ飛行機工場ニ於テ之ヲ製作セシメツ、アリ尙家具辨償法モ不日議決サルヘク該法ニ依レハ一家ニ對シテ家具損害トシテ二〇〇〇弗迄ヲ下附シ得ルモノニシテ昨年十一月二日戰地復舊省ハ家具ノ賠償トシテ戶主ニ對シ二〇〇〇弗其他家族一人ニ就キ四〇〇弗以内ヲ支給スヘキヲ以テ此條件ノ下ニ家具家財ノ購入ヲ許可シ且ツ希望ニヨリテハ政府ノ貯藏セル所ヲ下附スヘキヲ告示セリ而シテ獨軍ノ侵略セル地方ニ於テハ家具ハ勿論其他ノ什器、農具、寢具、衣服等ハ凡テ掠奪サレ又ハ破壊燒却サレタリ尙工務局ニ於テハ各地方ニ於テ最モ容易ニ得ラルヘキ建築材料ニシテ使用簡單ナルモノニ就キ研究中ニシテ而已ナラス巴里ニ研究所ヲ新設シテ普ク新工法新材料新形式等ニ關スル研究ヲ爲サントセリ同局ハ十月二十二日報告ヲ以テ各地方ニ於ケル石材及其他原料ノ產出地ヲ指示セシカ一例ヲ述フレハ石材ハのるそんむ二州ノ外各地ニ產シ煉瓦用粘土ハ各地ニ產スルモ特ニのる州ニ多ク唯使用石炭ノ供給困難ナルコトヲ示シ砂ハ各地ニ得ラルヘクせめんとハ若シ所用ノ石灰及勞力ヲ給スルニ於テハばどかれゝまるぬむゝずむる、えもゝぜる諸州ニ於テ充分ナル製品ヲ得ヘク尙石灰ハ到ル所ニ產シ其製造亦容易ナルヲ以テ其利用ヲ獎勵シ瓦ハあるだんぬ(Ardennes)州ニ於ケル多數ノ工場ヨリ供給シ得ヘク木材ニ到リテハ各州共ニ多少ノ產出ヲナシ得ト雖モ其供給シ得ヘキ總數ハ不明ナリ屋根すれゝとハあるだんぬむる、えもゝ



せる二州ニ多量ニ産シ硝子ハ北方即えーぬ及べるぢゅむ (Belgium) 地方ヨリ來ルヘシ然レトモ最モ緊急ヲ要スルハ此等材料ノ採掘製造ニ要スル器具器械類ニシテ工務局ハ此等ノ準備ニ全力ヲ盡シツ、アリ一九一七年春敵軍ノ手ヨリ回復セシ土地ハ一億えーかーニシテ内五十萬えーかーハ耕作ニ堪ヘタリシヲ以テ政府ニ於テ八萬えーかー佛軍ニ於テ一萬二千えーかー英軍ニ於テ約五萬えーかーヲ耕作セリ當時政府ノ有セシ耕運機ハ八〇〇臺注文中ニ屬スルモノ一五〇〇臺ニシテ今日ニ於テハ一五〇〇臺以上ヲ有シ其ノ半ハ戰場地方ニ使用シ得ヘシ獨軍最後ノ退却ニ際シテハ麥圃十三萬えーかーヲ刈リ取り爲メニ使用セシ人員一六九九三人馬匹三、三二四頭機鎌及手鎌九、八九五結束器八二三ニ達セリト云フ

同省農務局ノ事業トシテハ一九一七年をんむえーぬばど、かれー地方ニ亘リテ一、二〇〇ノ農業組合ヲ組織セシメタリ此等ノ組合ハ地方農民ヨリナリ其大ナルモノハ十萬えーかーノ土地ト八、〇〇〇ノ組合員ヲ有セリ此等ノ地方ハ一九一八年春ノ敵軍前進ニ當リ殆ント一草ヲ止メサル迄ニ荒廢セシヲ以テ組合ハ農具器械家具ヲ準備シ直ニ復舊事業ニ着手セントス而シテ曩ニ附與サレタル二十萬弗ノ資金中ノ一部ハ此等組合補助ノ爲メ支出サレタリ尙同局ハ昨秋回復セル地方ノ耕耘施種ニ全力ヲ注キ避難民續々歸來シ猶俘虜ノカヲ利用シテ此等ノ事業ニ從ハントス然レトモ不幸ニシテ此地方勞力ノ不足牛馬ノ缺亡等ハ耕作ヲ著シク困難ナラシメタリ戰時中毎月一二、〇〇〇ノ馬匹ハ軍用ノ爲メニ徵發サレ今日ニ於テ尙若干ノ殘畜アル地方ト雖モ其價一、〇〇〇弗ニ上レリ況ンヤ家畜ヲ輸入シテ此等地方ニ導クト雖モ野ニ一草ノ牧スヘキナキ狀態ナリ政府ハ家畜ニ代フルニ耕耘機、機鋤等ヲ使用セントシテ其準備ニ忙殺セラレツ、アルモ未タ要求ヲ充タスニ足ラス目下此等器械類價格千八百萬弗ノ注文中ニ在ルモ已ニ納附サレタルハ少數ニ過キス尙政府ハ避難民ノ歸還ヲ獎勵センカ爲メ荒廢地一えーかーニ就キ一六〇弗ノ賠償ヲ約セリ而シテ

540  
軍事的復員ノ行ハレサル限リ耕作地ノ復舊モ亦困難ニシテ政府ハ昨年十二月一日一萬五千頭ノ馬匹ヲ除隊シテ戰場農業用ニ使役セシメタリ  
一方破壊セラレタル工業ノ回復ハ一層重大ナル問題ニシテ政府ハ工場材料器械器具等ノ配給ノ



復舊ニ對スル注文ハ約三千萬弗ニ達セリ最近工業能力回復協會ハ同種原料ヲ使用スル工業者間ニ組合ヲ組織セシムル計畫ヲ立テ製鐵業者間ニハ已ニ其成立ヲ見タリ是レ同業者ノ全部カ一時ニ復業スル事能ハサルヲ以テ順次ニ開業セシメ其利益ハ各組合員ニ適當ノ割合ヲ以テ分配セントスルモノニシテ以テ器械原料品等ノ急激ノ需要ヲ緩和セントスルモノナリ尙協會ハ各工業ノ

爲メニ工業回復省ヲ新設シ官吏及工業家ヲ共同シテ事ニ當ラシメ豫算額五千萬弗ヲ以テ必需品ヲ準備シ之ヲ各工場ニ分配給附セントス購買ハ主トシテ民間組合ヲシテ之ニ當ラシメ政府ハ單ニ保證ヲ與フルニ過キス該組合ハ主トシテ侵略地方工業者ヨリナリ工業能力回復協會ト名ツケラル然レトモ佛國民法ニ於テ組合ハ商事行爲ヲ行フ能ハサルヲ以テ別ニ資本金二十萬弗ヲ以テ一商會ヲ組織シ各種ノ買賣業務ヲ行ハシム今日ニ於テ此等ノ事務局ノ購買セル物品ハ千二百萬弗ニ及ヒ尙器械器具原料品等ノ注文約四千萬弗ニ達セリ此等ノ注文ハ主トシテ炭坑發電所及配電設備等ノ回復ニ準備セルモノニシテ其他紡織酒造製糖製油製脂等ノ工場ノ

熟練セル勞働者ヲ準備シテ開業者ニ直ニ配布セントス  
建築家ノ諸協會ハ大戰初期ヨリ已ニ回復事業ヲ調査研究シツ、アリテ政府ノ施設ト呼應シテ銳意其進捗ニ盡サントシーノ聯合協會ヲ組織セリ建築家協會ハ一九一六年中經濟的住居ニ關スル博覽會ヲ開催シ次テ翌年秋美術局ト共同シテ各種ノ農村建築都邑建築ノ改良ニ關スル設計ヲ懸賞募集セリ佛國ニ於ケル諸負業組合モ亦政府ノ指揮ノ下ニ復舊事業ニ當リ建築材料ノ購買及勞働者ノ配給ニ關シテハ政府ノ助力ヲ受ク各種農事協會モ亦農事ノ復舊歸還民ノ救済ニ盡力シツツアリ公共衛生従事員モ亦侵略サレタル地方ノ回復ニ盡力シ戰後經濟調査協會ハ工業商業農業等ニ關シ多大ナル調査研究ヲ爲シ戰後ニ對シ充分ナル準備ヲ整ヘタリ都市計畫問題ニ關シテハ戰時中ヨリ都市協會ヲ組織シあら、あるべ其他市邑ノ計畫ニ關シ充分ナル研究ヲナセリ而シテ市長市會議長ト協力シ市區ノ改良計畫ニ對シ大規模ノ懸賞募集ヲナサントス其他法律家ハ種々ノ協會ヲ組織シ避難民ノ取扱ヒ損害賠償耕地ノ分配衛生等ニ關シ充分ナル研究ヲ爲セリ

**團體及私人ノ救濟事業** 多數ノ協會及私人ハ侵略地ノ救済ニ對シ著大ナル貢獻ヲナシツ、アリシカ今ヤ戰地復舊省ノ統轄スル所トナレリ此等ハ戰場地ニ各種ノ衣類、家具、食器、農具、種子、肥料、家畜、寢具、食料等ヲ供給セリ英米ふれんど協會ハ戰後以來戰場附近ノ救済ニ從事シ殊ニびとれ、るふらんそあばる、る、て、<sup>the</sup> <sup>one</sup> <sup>の</sup> <sup>ん</sup> <sup>む</sup> 地方ニ活動セシカ目下べるだんノ南西地方ニ大規模ノ再建工業ヲ計畫セリ其他佛英米等ノ協會二〇乃至三〇ハ各方面ニ亘リテ救済事業ニ盡力シ主務大臣ハ此等ニ對シ應急的救済事業ヲ分擔セシメツ、アリ尙米國赤十字社ハ一九一七年中そんむ地方ニ七五ノ家屋ヲ修繕シ英米ふれんど協會ハ五一棟ノ可動假舎ヲ築造シ尙三〇乃至四〇戸ノ家屋ヲ修繕セリ此等カ開戰以來修繕セシ建築ハ數百棟ニ達ス而シテ米國赤十字社ハ特ニ復舊研究會ヲ組織シ佛國政府並ニ諸協會及組合ト共力シテ戰後回復事業ノ立案ニ參シツ、アリ (完)